

# 高度成長期における産地織物業の組織化と構造改善事業（1）

——埼玉県西部綿織物産地の事例——

白戸伸一

キーワード：産地織物業、高度成長、組織化、構造改善、商工協同組合

はじめに

- 1 第二次大戦後織物業の動向
  - 2 産地織物業に対する組織化政策の変遷
  - 3 所沢織物商工協同組合地域の織物生産
  - 4 所沢織物商工協同組合の機能
- 小括

## はじめに

小稿では、第2次大戦後の高度成長期に展開された組織化政策が、産地織物業という在来産業や地域経済の発展にどのような役割を果たしたのかを実証的に検討する。着目する組織は、1949年公布の中小企業等協同組合法に基づく協同組合、1952年公布の中小企業の安定に関する臨時措置法及びそれが改正されて成立した中小企業安定法に基づく調整組合、1957年公布の中小企業団体法に基づく商工組合、1967年公布の特定繊維工業構造改善臨時措置法（以下では特織法と略記）に基づく織物構造改善工業組合等である。

ここで取り上げる組織化政策の対象は、地域に密着した中小零細経営を担い手とする在来産業である。このような対象にアプローチする場合の課題と分析視角について若干触れておこう。

まず在来産業の概念と産業構造における位置づけについてである。小稿では、ひとまず中村隆英氏の定義づけ、すなわち「農林水産業を除いた近世以

来の伝統的な商品の生産流通ないしサービスの提供に携わる産業であって、主として家族労働、ときには少数の雇用労働に依存する小経営によってなりたっている産業<sup>1</sup>と捉えておく。同氏によると、その発達領域は国民生活に直結した伝統的消費財と輸出向け商品の生産・流通領域である。「近代産業よりもはるかに大量の人口を吸収」するいっぽうで、歴史的にみると「電力の利用、機械化などによって、在来産業の一部は、中小企業に脱皮し、さらに中堅企業に発展していったが、大部分は伝統的な在来産業の形を保って<sup>2</sup>」おり、戦時中の企業整備によりいったん縮小するものの戦後は再生され、さらに「高度成長期に入って、輸出品の生産と流通に大企業が参入したことによって」縮小傾向にあるとされている。

このように在来産業を捉えた場合、経営規模は小規模であるが、地域の雇用を支えながら国民生活と密着し、資源の乏しいわが国の輸出を長きにわたって担ってきた重要な領域であるといえる。しかし、大企業との競争下で経営を存続させるためには、規模格差によって生じるハンディを共同化、組織化等を通じてカバーし、生産性を高めつつ多様性と同時に品質水準や規格の統一性を保ち、ブランド価値を高めてゆく必要があったと思われる。しかしながら、個別経営の独立性と組織化による統合はしばしば矛盾をはらんでおり、対立面と協調・共同面の調整が常に問題となる。国や自治体による組織化政策が有効となる背景もこの矛盾があるからである。ただし、政策的には共同化による経営基盤強化に力点が置かれた組織化（中小企業等協同組合法＝組合法に根ざす組織化）と、過当競争の抑制と調整に力点が置かれた組織化（中小企業団体の組織に関する法律＝団体法に根ざす組織化）があり、歴史的にはこれら2つの組織化政策が併存しながら展開されてきた<sup>3</sup>。この点については、実態に即してそのような併存の意味を検討する必要があるだろう。

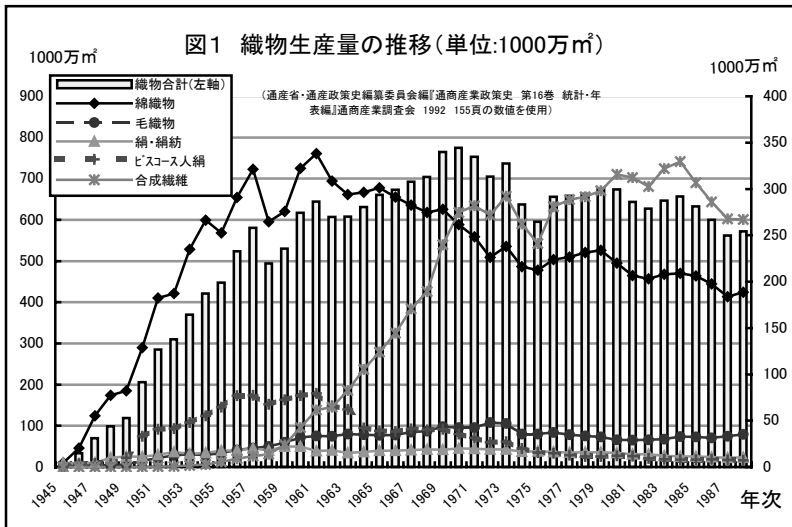
また、中村氏は「輸出品の生産と流通」に対する大企業の参入が在来産業を縮小させたと捉えているが、そのメカニズムについては必ずしも明らかではない。この点についても実態の中から解明する必要があると思われる。

このような視角から高度成長期にその成長の一翼を担った織物産地に着目

する。対象地域は、戦前から織物業が発達し1960年代の構造改善事業の対象地域ともなった埼玉県西部である。

## 1 第二次大戦後織物業の動向

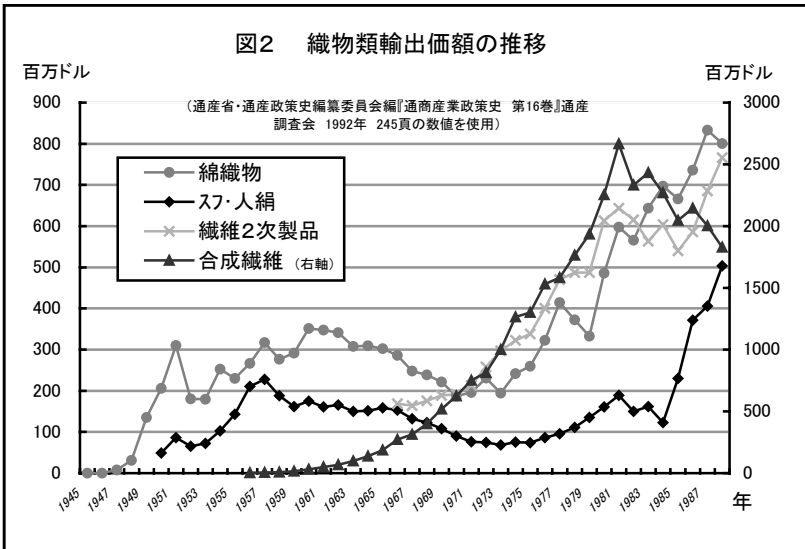
繊維産業は、戦時経済下で生産を大きく制約されたのみならず、強制的に軍需工業に転換させられたり、資源不足のため紡織機等の生産手段を供出させられた<sup>4</sup>。そして戦災による工場の被害と原料不足のため、戦後の復興にはしばらく時間を要した。しかし国民的需要と外貨獲得のための奨励政策、さらには朝鮮戦争による特需で急速に回復に向かった。1951年には工業生産全体が戦前水準（1934～1936年平均）を凌駕し、1955年には戦前・戦時の最高水準を凌駕した<sup>5</sup>。繊維産業も、1950年代後半には戦前水準を凌駕している<sup>6</sup>。図1にみられるように、織物生産も1945年以降急速に生産量を増大させ、1970年にはピークに達している。ただし製品種類別に見た場合、当初は綿織物が牽引しているが、1961年にすでにピークに達し、そのころから合成繊維織物が急上昇し始め、やがてこれが織物生産をリードするようになっていく。織物といっても種類によって成長プロセスが異なることは留意すべきである。



つまり、伝統的な織物産地が絹・綿といった天然繊維を中心に発達してきたことを考慮すると、新たな素材を用いた兼営織布型の寡占の大規模繊維メーカーによる生産が急速に成長していったことを見逃してはならない。

織物生産は国内需要を満たすのみならず、戦前同様外貨獲得産業として、積極的に輸出に向けられた。特に重工業の回復・成長のためにも戦後復興期から高度成長前期にかけては、輸出面で重要な役割を果たしている。図2にみられるように、当初は綿織物（目盛りは左軸）及びスフ・人絹（同前）が輸出の中心を担っているが、生産面での変化を反映して、1960年代後半より合成繊維製品（ナイロン、ビニロン、ポリエステル、アクリル等、目盛りは右軸）が急増しはじめ、1967年以降は綿織物に替わって首位となっている。

綿製品については、GHQがその輸出を最重点としたこともあって1946年に米綿、47年にはインド綿輸入が再開され、急速に復興を遂げてゆく。朝鮮戦争時にはいわゆる「糸ヘン景気」となるが、1952年には特需景気の反動で不況状態に陥り、早くも生産調整が必要となった。輸出面ではヨーロッパでは輸出規制があり伸び悩むいっぽうで、1955年の綿製品関税引き下げ交渉がま



とまり対米輸出は激増する。しかしそれに対するアメリカ国内での反発が強まり、1956年には輸出制限を余儀なくされる。1963年より日米綿製品交渉が開始され、毎年のように輸出制限がおこなわれるが、アメリカ国内で1967年には合成繊維についても規制を求める運動が活発となり、1968年には輸入課徴金が創設された。

合成繊維については、1949年には「試験生産の域を脱して工業生産に移った」とされている<sup>7</sup>。政府は合成繊維産業育成の方針を採り、東洋レーヨン（東レ）、倉敷絹織（クラレ）、日本レイヨン（ユニチカ）、大日本紡績（ユニチカ）、三菱レイヨン、帝人、旭化成等がナイロン、ビニロン、後にポリエステル、アクリル繊維等の生産を増強してゆく。その結果が先程見られた1960年代の主役交替に帰着したと言えよう<sup>8</sup>。

## 2 産地織物業に対する組織化政策の変遷

1946年12月に制定された商工協同組合法は、戦時統制立法の一翼を担っていた商工組合法に替わる組織立法として制定された。商工組合法では総力戦に対応した経済統制を目的とした統制組合と、組合員事業の改良発達を目的とした施設組合のうち、前者が中心となっていたが、商工協同組合法では前者を廃し後者による事業の合理化が企図された。事業として、共同施設、取扱品や設備等の検査、指導・研究・調査、金融、商品券・倉庫証券の発行を目的としていた。しかし実態は「大半が戦時下の商工組合がそのまま改組したもの」であり、「資材割当をその結成目的」としており、「多くの組合が業界のほとんどすべての事業者をその傘下におさめ、協同組合という機構の中に隠れて大きな事業者が事実上他の事業活動を排除または支配」しており、統制色のつよい組織だったと見られている<sup>9</sup>。

1946年の商工協同組合法が応急的臨時措置の域を脱しきれなかったものに対し、1949年に公布された中小企業等協同組合法は、「戦後の中小企業組織化の諸対策が展開されることとなった」ものであり、「同業組合ないし統制組合の性格を払拭し、自治的相互扶助の精神に徹したもの」であったとされる<sup>10</sup>。

その特徴は第1に、組織しうるものの対象が商・工・鉱業等あらゆる事業者であり、企業組合や信用協同組合（＝信用組合）では勤労者も加入可能であった。ただし、事業規模が中小規模以下（工業は従業員数100人以下、商業・サービス業は20人以下。後にそれぞれ300人以下、50人以下まで拡大）であり、資本金も上限が規定されていた。第2に、加入・脱退の自由、設立・解散・定款変更に関与を排し（後に変更）、民主的原則を明確にしたものであった。第3に、相互扶助の精神で、商法の規定を準用しながら経済事業を共同しておこなう組織という点である。商工業の本格的な協同組合ということで、従来の商工協同組合の改組もすすみ、事業協同組合は急速に増加した。拡大状況は表1のとおりである。全体の動向としては、80年代半ばにピークを迎えその後はしばらく低迷状態にある。1950年代の業種別構成を見ると、事業協同組合の半分が製造業であり、3割を商業、それ以外では運輸業やサービス業が比較的多い。製造業中では食料品工業と紡織工業が大きい割合を占めていた<sup>1)</sup>。中小零細事業組織が多い紡織工業で組織化が進むのは肯首しうる。

朝鮮戦争後日本経済は不況状態に陥り、中小企業等協同組合法は「理念」と現実との乖離の中で大きく修正されてゆく。この法律の主たる目的は、中小企業を組織化し共同経済事業を展開することにより経営基盤の強化を図る

表1 種類別組合数の推移

| 年度   | 事業     |    | 企業     | 信用  | 火災 | 商工    | 協業  | 商振興   |
|------|--------|----|--------|-----|----|-------|-----|-------|
|      | 協組     | 小組 |        |     |    |       |     |       |
| 1950 | 13,482 |    | 5,103  | 626 |    |       |     |       |
| 1955 | 23,330 |    | 10,936 | 390 |    |       |     |       |
| 1958 | 24,612 | 5  | 10,549 | 460 | 4  | 366   |     |       |
| 1960 | 20,095 | 19 | 5,117  | 468 | 34 | 624   |     |       |
| 1965 | 27,283 | 27 | 5,075  | 531 | 37 | 1,196 |     | 623   |
| 1970 | 36,433 | 36 | 4,983  | 534 | 39 | 1,629 | 647 | 1,056 |
| 1973 | 40,172 | 37 | 4,953  | 501 | 39 | 1,718 | 982 | 1,425 |

- ・協組：協同組合、小組；事業協同小組合、企業：企業組合、信用：信用協同組合、火災：火災共済協同組合、商工：商工組合、協業：協業組合、商振興：商店街振興組合
- ・1960年に協組・企業組合が著減したのは休眠組合を除いたため。
- ・1955年に信用組合が著減したのは信用金庫に移行したものがあつたため。
- ・加藤・水野・小林編『現代中小企業基礎講座3 組織問題と中小企業』同友館 1977 86頁の数値を転載。

ことにあったのだが、不況に見舞われた結果、脆弱な経営基盤で過当競争を続けることが極めて困難な事態が発生してきた。そのため1952年8月に「特定中小企業の安定に関する臨時措置法」が公布・施行される。「特定中小企業」とされた業種は、綿・スフ織物、絹・人絹織物、紐・細幅織物、マッチ、ゴム製品、漆器、瑠璃鉄器等の14業種であり、そのうち9までが繊維産業であった。この法律は、独禁法が改正され不況カルテル等を容認することになったので、翌年8月に「中小企業安定法」と名称変更され、恒久的な法となる<sup>12</sup>。本法の目的は、慢性的不況対策として調整組合を結成し、需給調整＝生産設備の制限や新設の抑制、生産数量制限、出荷数量制限をおこなうことにあった。そのために大企業の加入も排除していない。それ以外の事業としては、事業経営の合理化に関する指導・斡旋、資金貸し付け・借入を謳っていたが、共同経済事業をおこなうことはできなかった。いっぽう協同組合は生産・購販事業等の共同経済事業が中心にあり、生産数量の制限や販売価格調整も一応は可能であったが、加入・脱退が自由なことや、アウトサイダーを拘束するものではなく組合内での調整であるため、調整という点ではきわめて限定的なものでしかなかった。従って、「特定の業界に係る共同経済事業と調整事業とを併せて実施しようとする場合、協同組合と調整組合とを別々に設立する必要があり、組織の重複、組合員の負担増加を招くといった弊害」を生じることとなった<sup>13</sup>。

このような問題を解決するには、共同経済事業と調整事業を一つの組合組織でおこなえばよい。事実、1957年12月公布の「中小企業団体の組織に関する法律」（中小企業団体会法）は、これらの事業をおこないうる組織として商工組合を設定した。本法により中小企業安定法は廃止され、調整組合は改組されることになる（1958年4月調整組合廃止）。本法では、中小企業一般の慢性的不況状態が構造的過当競争状態にあるとして、調整組合のような業種による制限はない。すなわち、「中小企業者の競争が正常の度をこえて」という条件を除外し、「事業活動に関する取引の円滑な運行が阻害され、その相当部分の経営が著しく不安定」または「なるおそれがある場合」に設立が認めら

れている。調整組合が一時的な「不況カルテル」であったとすれば、商工組合は「恒常的」に存在し「構造的な」過当競争を排除するための組織だったのである<sup>14</sup>。また、アウトサイダー規制については、事業活動規制命令と組合への加入命令が付与されたほか、商工組合の団体交渉権が認められ、相手側に応諾義務を課している。なお、共同経済事業が実施できるのは、不況要件が存在する場合に限定されていたこともあって、当初調整事業をおこなっても共同購販・加工等の経済事業を併存させている商工組合はきわめて少なかった<sup>15</sup>。この問題点の改善が図られるのは1962年の本法改正であり、商工組合設立要件から不況の事実の存在が除かれている。さらに商工組合の事業に、指導調査事業及び合理化事業が追加された。その結果、商工組合は急増してゆく。

中小企業の組織化という点では、これら中小企業協同組合法、中小企業団体法を軸に展開されてきたが、1962年には商店街振興組合法が公布され、郊外型の大型店増加に対処するための中小小売業の組織化が積極化する。また、1967年には中小企業団体法の第7次改正により協業組合制度が新たに追加されている。これは、1963年に公布された中小企業近代化促進法や中小企業基本法で示された中小企業施策の新たな方向とも関連がある。すなわち、1960年代には開放経済体制に向けた中小企業の近代化・体質改善の政策が展開されるのだが、近代化促進法は高度化・競争力強化のための事業近代化計画作成援助や、転廃業も含む事業の構造改善援助を規定したものであり、基本法は、「国民経済の成長発展に即応し、中小企業の経済的社会的制約による不利を是正するとともに、中小企業者の自主的な努力を助長し、企業間における生産性等の諸格差が是正されるように中小企業の生産性及び取引条件が向上すること」を目的として（第1条）、高度化のための包括的な規定がなされていた。協業組合制度は、資本調達力の弱い中小企業者が、この難点を克服して近代化を促進するために資本と経営を統合し、組合自体を事業主体とするものであり、高度化・競争力強化の一手段だったといえる。これらの組合の進捗状況は前掲表1に示したとおりである。



中小企業の振興策としては、このような組織化により小規模性に由来する競争上の劣位を克服するとともに、これらの組織を媒介とした金融的支援や過当競争抑制の具体的規制も並行しておこなわれている。輸出産業に限定されてはいたが1949年から少額ながら協同組合の共同施設に対する補助金が支給されている。1954年には、直接組合員に対しても機械設備の近代化のための国庫補助がなされている。商工組合中央金庫や中小企業金融公庫、国民金融公庫からの融資は、1957年頃より拡大し始め50年代後半から70年代前半のいわゆる高度成長期には貸出残高が急速に増加している。この時期に「商工組合中央金庫による組合金融と国民金融公庫による零細企業金融、主に短期性の運転資金を供給する相互銀行、信用金庫、信用組合の民間中小企業専門金融機関、そして、主として長期性の設備資金を供給する中小企業金融公庫」という「中小企業金融機関の体系化」が進められたようである<sup>16</sup>。

中小企業協同組合の共同施設に対する助成という点では、1949年中小企業等協同組合法公布時点より補助金助成がおこなわれていたが、1956年の中小企業振興資金助成法に引き継がれ、1963年の中小企業近代化資金助成法（経営近代化に資する設備近代化資金と、協同組合の共同施設設置、工場集団化、小売店舗共同化等のための高度化資金に区分される）、1966年中小企業近代化資金等助成法（高度化対策を中心とする大幅改正）へと継承された。従って1967年度以降は高度化資金が急増してゆく<sup>17</sup>。

繊維産業における過当競争抑制のための具体的規制は、調整組合による操短等で1950年代前半から見られたが、織機を登録して生産設備を制限する方法もおこなわれはじめた。1956年に公布された繊維工業設備臨時措置法（繊維旧法）は、生産過剰、輸出激増による貿易摩擦に対し、未登録の設備（精紡機、織物幅出機、織機）の使用禁止・登録設備の使用制限、さらには需給予測に基づく過剰設備買い上げをおこなうものであった<sup>18</sup>。しかし、天然繊維の伸びは予想以上に低く、逆に合成繊維は著増したため設備過剰問題を解決できなかった。1961年に原綿・原毛の輸入自由化が実施されると、原綿輸入割当による短期的需給調整も困難となる可能性があったので、1960年には織

維旧法を改正し、繊維製品の需給状況に応じて過剰設備を「格納」し、無登録設備使用制限を厳格化することにより調整を試みるが、「生産性の向上によって十分な効果を挙げられず」、「設備過剰は慢性化」した<sup>19</sup>。

1964年公布の繊維工業設備等臨時措置法（繊維新法）は、繊維旧法に替わって過剰設備を規制するものであり、設備の廃棄と「格納」によって需給調整を図るものであった。精紡機については廃棄した錘数の半分を新設に振り換えることを認めていたが、結果的には稼働錘数を増加させ、主要な糸の生産を急増させたため、繊維不況を一層深刻なものとしてしまった。また、当初懸案であった合成繊維の規制については、その担い手が「少数の大企業からなる大規模な装置産業」であったことから、官民合同の化学繊維工業協調懇談会（1964年10月設置）によって調整されることとなり、繊維新法の枠外におかれた<sup>20</sup>。

1967年公布の特定繊維工業構造改善臨時措置法（特織法）は、繊維産業分野での国際競争を考慮して、過剰設備廃棄のいっぽうで近代化を進めることにより構造改善を図ることを企図して設定された。紡績分野では、現存の1275万錘中約300万錘が過剰という認識で、1968～69年だけで約79万錘が廃棄された。織布業では、産地組合が産地構造改革計画を策定し、通産大臣の認定を経て、国からの助成を受けつつ企業の集約化、設備近代化、過剰設備処理、商品・設備の開発、市場開拓等を推進するものとされた。1968年度には36の産地組合が構造改善事業に取り組むこととなり、「約42万台ある織機のうち、今後5年間で6万台強の過剰織機を含め17万台の織機を廃棄し、11万台の新鋭織機をビルド」する<sup>21</sup>。産地組合は、所要資金の7割を中小企業振興事業団から低利融資され、設備を一括購入して組合員に買い取り予約付きでリースするというものであった。

以上、戦後の復興期から高度成長期における繊維産業の全国的動向と、織物業に関する経済政策の変遷を、とりわけ組織化政策の展開に着目して概観した。このような全国レベルの展開に個別産地における実態がいかに対応していたのかを次に検討しよう。

### 3 所沢織物商工協同組合地域の織物生産

1949年に設立された所沢織物商工協同組合の地域は、現在の所沢市、狭山市、入間市、飯能市、川越市に跨っており、戦前から綿織物、絹綿交織物の生産が盛んであった（表2）。織物生産の中心は入間、狭山市域であったが、買継商は主に所沢に居住していた。明治期は絹綿交織、瓦斯縞、戦勝銘仙、夜具地等、大正期は湖月銘仙、夜具地、座布団地、風呂敷地等、昭和戦前期は小月銘仙、新湖月縮、綾織、大島紬、夜具地、座布団地、風呂敷地、別珍等の多種類のもので製織されていた。この地域にあった武蔵織物同業組合は、1915年に元加治村仏子（現入間市）に整理工場を建設し、この地域の織物の商品価値向上に貢献している。1920年代に力織機化が進み、「平仙工場のように、東京の紡績会社や輸出会社の資本のもとに系列化され、輸出向けのワイシャツ地や綿縮緬を専門に生産する新しいタイプの工場」も現れた<sup>22</sup>。

表2 所沢織物同業組合・所沢織物工業組合傘下業者の織物生産量

| 年度   | 生産量（単位：1000反、1000碼） |     |     |     |       |     | 生産価額（単位：1000円） |       |     |       |     |       |       |       |
|------|---------------------|-----|-----|-----|-------|-----|----------------|-------|-----|-------|-----|-------|-------|-------|
|      | 絹                   | 人絹  | 絹綿  | スフ  | 綿     | その他 | 計              | 絹     | 人絹  | 絹綿    | スフ  | 綿     | その他   | 計     |
| 1910 |                     |     | 953 |     | 238   |     | 1,191          |       |     | 1,353 |     | 230   |       | 1,583 |
| 1915 |                     |     | 340 |     | 225   |     | 565            |       |     | 492   |     | 304   |       | 797   |
| 1919 |                     |     | 984 |     | 589   |     | 1,573          |       |     | 5,440 |     | 3,374 |       | 8,814 |
| 1920 |                     |     | 747 |     | 401   |     | 1,148          |       |     | 3,335 |     | 1,463 |       | 4,799 |
| 1925 |                     |     | 894 |     | 698   |     | 1,591          |       |     | 3,121 |     | 2,673 |       | 5,795 |
| 1930 | 192                 |     | 108 |     | 1,232 |     | 1,532          | 715   |     | 244   |     | 2,311 |       | 3,270 |
| 1935 | 82                  | 153 | 439 |     | 627   |     | 1,303          | 413   | 374 | 1,114 |     | 1,534 | 1     | 3,436 |
| 1940 | 56                  | 73  | 447 | 16  | 5     |     | 597            | 1,349 | 408 | 3,530 | 576 | 166   | 1,362 | 7,392 |
|      | 406                 | 257 | 775 | 836 | 902   | 917 | 4,092          |       |     |       |     |       |       |       |
| 1945 | 44                  | 38  |     |     |       |     | 82             | 1,619 | 153 | 1     | 87  |       | 57    | 1,916 |
|      | 308                 | 1   |     | 113 |       | 31  | 453            |       |     |       |     |       |       |       |

- ・生産量は1910～35年は反、1940,45年の上段は反、下段は碼単位の数値。
- ・所沢織物商工協同組合資料No.1513中の資料を参照。

表3 戦時・戦後の武蔵織物商工協同組合地域の生産基盤

| 年度     | 工場数 | 織機    |       |        | 従業員数  |
|--------|-----|-------|-------|--------|-------|
|        |     | 広幅    | 小幅    | 足踏・手織物 |       |
| 1943   | 146 | 1,894 | 2,074 | 5,920  | 1,709 |
| 1943*  | 63  | 741   | 754   | 1,585  | 617   |
| 1944   | 74  | 741   | 657   | 1,483  | 562   |
| 1947   | 77  | 648   | 887   | 1,575  | 534   |
| 1947** | 206 | 775   | 908   | 2,912  | 729   |
| 1949   | 249 | 791   | 874   | 2,850  | 934   |
| 1950   | 51  | 811   | 198   | 393    | 674   |

- ・\*企業整備後、\*\*小川・越生・飯能・川越・高階の業者加入後の数値。
- ・出典：所沢織物商工協同組合資料No.1513。

表4 1950年度以降の所沢織物商工協同組合地域の織機台数及び従業員数の推移（年度末）

| 年度   | 綿スプ業  |     |       |      |     |     | 絹人絹業 |    |     | 制限外織機 |       |     |     | 計     |     |       |       |  |  |
|------|-------|-----|-------|------|-----|-----|------|----|-----|-------|-------|-----|-----|-------|-----|-------|-------|--|--|
|      | 織機台数  |     |       | 織機台数 |     |     | 織機台数 |    |     | 工場数   | 織機台数  |     |     | 従業員数  |     |       |       |  |  |
|      | 広幅    | 小幅  | 計     | 広幅   | 小幅  | 計   | 広幅   | 小幅 | 計   |       | 広幅    | 小幅  | 手・足 | 計     | 男   | 女     | 計     |  |  |
| 1950 | 616   | 21  | 681   | 71   | 278 | 972 |      |    |     | 67    | 687   | 299 | 667 | 1,653 | 114 | 567   | 681   |  |  |
| 1951 | 864   | 156 | 1,020 | 63   | 155 | 362 |      |    |     | 73    | 927   | 311 | 145 | 1,383 | 121 | 697   | 817   |  |  |
| 1953 | 1,032 | 162 | 1,194 | 66   | 240 | 471 |      |    |     | 76    | 1,098 | 402 | 165 | 1,665 | 156 | 845   | 1,001 |  |  |
| 1954 | 1,147 | 249 | 1,396 | 18   | 141 | 324 |      |    |     | 81    | 1,165 | 390 | 165 | 1,720 | 156 | 915   | 1,071 |  |  |
| 1955 | 1,420 | 445 | 1,865 | 36   | 18  | 219 |      |    |     | 91    | 1,456 | 463 | 165 | 2,084 | 156 | 912   | 1,068 |  |  |
| 1956 | 1,277 | 467 | 1,744 |      | 36  | 201 |      |    |     | 88    | 1,277 | 503 | 165 | 1,945 | 173 | 1,148 | 321   |  |  |
| 1957 | 1,303 | 339 | 1,642 |      | 119 | 212 |      |    |     | 67    | 1,303 | 458 | 93  | 1,854 | 203 | 1,228 | 1,431 |  |  |
| 1958 | 1,346 | 249 | 1,595 |      | 142 | 219 |      |    |     | 69    | 1,346 | 391 | 77  | 1,814 | 229 | 1,218 | 1,447 |  |  |
| 1959 | 1,327 | 266 | 1,593 |      | 148 | 225 |      |    |     | 68    | 1,327 | 414 | 77  | 1,818 | 260 | 1,436 | 1,699 |  |  |
| 1960 | 1,346 | 226 | 1,572 | 8    | 106 | 128 | 97   | 30 | 147 | 71    | 1,451 | 382 | 14  | 1,847 | 294 | 1,417 | 1,847 |  |  |
| 1961 | 1,387 | 239 | 1,626 | 8    | 92  | 114 | 107  | 46 | 153 | 76    | 1,502 | 377 | 14  | 1,893 | 301 | 1,724 | 2,025 |  |  |
| 1962 | 1,405 | 253 | 1,658 | 18   | 32  | 50  | 138  | 40 | 178 | 77    | 1,561 | 325 |     | 1,886 | 317 | 1,660 | 1,977 |  |  |
| 1963 | 1,447 | 227 | 1,674 | 18   | 32  | 50  | 190  | 52 | 242 | 75    | 1,718 | 311 |     | 2,029 | 298 | 1,645 | 1,943 |  |  |
| 1964 | 1,521 | 233 | 1,754 | 23   | 22  | 45  | 191  | 52 | 243 | 75    | 1,807 | 307 |     | 2,114 | 322 | 1,605 | 1,927 |  |  |
| 1965 | 1,501 | 213 | 1,714 | 23   | 22  | 45  | 187  | 53 | 240 | 73    | 1,782 | 288 |     | 2,070 | 301 | 1,512 | 1,813 |  |  |
| 1966 | 1,615 | 227 | 1,842 | 23   | 22  | 45  | 177  | 47 | 224 | 73    | 1,886 | 296 |     | 2,182 | 321 | 1,330 | 1,651 |  |  |
| 1967 | 1,627 | 208 | 1,835 | 12   | 13  | 25  | 177  | 47 | 224 | 71    | 1,887 | 268 |     | 2,155 | 310 | 1,210 | 1,540 |  |  |
| 1968 | 1,502 | 209 | 1,711 | 12   | 18  | 30  | 181  | 45 | 226 | 71    | 1,766 | 272 |     | 2,038 | 286 | 992   | 1,278 |  |  |
| 1969 | 1,495 | 214 | 1,709 | 12   | 18  | 30  | 178  | 45 | 227 | 69    | 1,756 | 277 |     | 2,033 | 292 | 949   | 1,241 |  |  |
| 1970 | 1,495 | 201 | 1,696 | 12   | 18  | 30  | 186  | 38 | 224 | 65    | 1,762 | 257 |     | 2,019 | 273 | 771   | 1,044 |  |  |
| 1971 | 1,488 | 192 | 1,680 | 12   | 18  | 30  | 186  | 38 | 224 | 65    | 1,755 | 248 |     | 2,003 | 277 | 742   | 1,019 |  |  |
| 1972 | 1,336 | 134 | 1,470 | 12   | 16  | 28  | 171  | 36 | 207 | 60    | 1,610 | 186 |     | 1,796 | 286 | 729   | 1,015 |  |  |
| 1973 | 1,070 | 83  | 1,153 | 12   | 18  | 30  | 167  | 29 | 196 | 46    | 1,349 | 130 |     | 1,479 | 263 | 651   | 914   |  |  |
| 1974 | 1,059 | 91  | 1,150 | 10   | 16  | 26  | 159  | 30 | 189 | 46    | 1,474 | 139 |     | 1,613 | 234 | 603   | 837   |  |  |

- ・表中の手・足は手織機・足踏織機。
- ・数値は各年度事業報告書による。所沢織物商工協同組合資料No.1327,829,830,831,832,181,145,833,834,1329参照。

表3は、戦時下及び敗戦直後の織物工場の状況を示したものである。1943年におこなわれた企業整備により、工場の統合化、軍需工場への転用、織機の供出がおこなわれたため、工場数は半減し織機数・従業員数ともかなり縮小された。戦後、1947年には原料配給の受け皿として機能した武蔵織物工業協同組合が設立された。埼玉県西部の織物産地を網羅する広域の組合だったため、工場数等は急増している。しかし1949年12月に中小企業等協同組合法による所沢織物商工協同組合に改組され、地域が以前の範囲に縮小されると工場数や織機台数は急減している。

再編された所沢織物商工協同組合域の生産基盤の推移は表4のとおりである。工場数は1955年度をピークに漸減しているが、70年代の構造改善事業の過程で急減している。全期間を通して綿スフ業用の織機が圧倒的に多く、綿織物を主流とする生産地域であったことが分かる。また1961年には姿を消す手織機や足踏織機は、ほとんどが絹人絹業用のものであり、その間こちらには家内工業的生産形態が残存していた可能性がある。なお、1955年に絹人絹織物業分野では、中小企業安定法第29条第2項による織機制限がおこなわれたので、綿スフ用に転換ということで移され急減している。1963年以降、広幅織機中には新たに導入されたタオル織機が60～70台含まれるようになり、74年には246台にまで増大している。1工場あたりの織機台数は、1950年代前半には20～25台前半、1950年代後半から60年代後半には25台以上、70年代にはいと30台を突破しており、規模拡大が進行していることが窺える。しかし1工場当たり従業者数は1961年の27人をピークとして60年代後半に20人台、70年代には10人台に低下しており、合理化もさることながら人員確保に苦慮していることが窺える。

表5は生産量及び生産価額の推移を示している。これらから窺える特徴として、まず第1にこの地域が内需向けの広幅織物を中心とした産地だったということである。戦後直後と1958～62年（この時期にはパバリーとウェザーが突出）は、輸出価額が10%乃至20%前後を占めているが、それ以外は圧倒的に内需向け生産であった。小幅織物の比率は、1947～49年は4割から6割

表5 所沢織物商工協同組合生産高

| 年度   | 数量(広幅は1000m <sup>2</sup> ) |        |                     |        |       | 価額(1000円) |           |         |           |         |
|------|----------------------------|--------|---------------------|--------|-------|-----------|-----------|---------|-----------|---------|
|      | 小幅(10反)                    | 広幅綿(m) | 合繊(m <sup>2</sup> ) | 計(広幅)  | 輸出(m) | 小幅        | 広幅綿       | 合繊      | 計(含小幅)    | 輸出      |
| 1947 | 9                          | 75     | 0                   | 198    | 1,146 | 17,538    | 543       |         | 23,610    | 17,991  |
| 1948 | 22,230                     | 324    | 0                   | 742    | 1,896 | 159,886   | 8,977     |         | 204,562   | 57,434  |
| 1949 | 16,534                     | 350    | 0                   | 766    | 514   | 119,190   | 29,983    |         | 198,670   | 58,985  |
| 1950 | 12,407                     | 553    | 0                   | 1,721  | 210   | 67,957    | 68,041    |         | 357,908   | 11,843  |
| 1951 | 21,694                     | 2,466  | 19                  | 3,646  | 127   | 102,386   | 453,206   | 3,962   | 770,712   | 6,200   |
| 1952 | 27,185                     | 3,956  | 3                   | 4,721  | 35    | 126,807   | 599,407   | 784     | 839,181   | 3,715   |
| 1953 | 26,352                     | 5,115  | 0                   | 5,537  | 48    | 140,345   | 806,496   |         | 878,166   | 4,527   |
| 1954 | 29,945                     | 5,635  | 52                  | 6,162  | 72    | 132,707   | 703,115   | 20,420  | 922,467   | 7,232   |
| 1955 | 30,415                     | 7,262  | 182                 | 7,882  | 93    | 148,321   | 921,433   | 66,051  | 1,202,058 | 9,442   |
| 1956 | 26,359                     | 9,269  | 263                 | 9,772  | 51    | 154,352   | 1,414,687 | 80,320  | 1,550,930 | 6,042   |
| 1957 | 27,365                     | 10,360 | 665                 | 11,135 | 18    | 150,113   | 1,506,574 | 169,284 | 1,845,189 | 2,593   |
| 1958 | 25,231                     | 9,882  | 459                 | 10,453 | 468   | 123,351   | 1,191,160 | 118,599 | 1,444,070 | 128,091 |
| 1959 | 19,496                     | 11,663 | 779                 | 12,460 | 735   | 106,983   | 1,380,342 | 169,781 | 1,661,102 | 148,939 |
| 1960 | 21,506                     | 11,598 | 2,015               | 13,628 | 1,099 | 123,387   | 1,342,643 | 388,462 | 1,861,577 | 222,328 |
| 1961 | 19,770                     | 12,007 | 2,893               | 14,932 | 1,028 | 120,236   | 1,381,355 | 539,268 | 2,046,521 | 238,605 |
| 1962 | 19,047                     | 11,898 | 3,138               | 15,059 | 806   | 117,541   | 1,303,122 | 562,785 | 1,988,171 | 221,349 |
| 1963 | 17,271                     | 13,763 | 3,523               | 17,343 | 199   | 115,560   | 1,757,214 | 678,628 | 2,567,355 | 40,346  |
| 1964 | 15,496                     | 14,871 | 2,617               | 17,679 | 199   | 118,223   | 1,781,160 | 447,479 | 2,382,178 | 13,253  |
| 1965 | 15,238                     | 15,335 | 2,562               | 18,301 | 279   | 113,143   | 1,859,012 | 439,074 | 2,360,094 | 35,631  |
| 1966 | 15,272                     | 16,752 | 2,789               | 19,826 | 224   | 116,426   | 2,016,011 | 509,004 | 2,683,619 | 45,935  |
| 1967 | 15,492                     | 18,227 | 1,759               | 20,310 | 158   | 119,017   | 2,362,286 | 353,708 | 2,891,626 | 42,606  |
| 1968 | 13,298                     | 17,705 | 1,730               | 19,588 | 226   | 109,336   | 2,466,866 | 360,133 | 2,975,257 | 69,563  |
| 1969 | 10,940                     | 17,248 | 1,976               | 19,328 | 293   | 98,878    | 2,518,253 | 386,000 | 3,031,234 | 99,605  |
| 1970 | 9,702                      | 16,520 | 1,135               | 17,766 | 316   | 90,236    | 2,820,357 | 262,443 | 3,109,048 | 107,399 |
| 1971 | 8,778                      | 15,914 | 974                 | 16,905 | 147   | 83,152    | 2,855,993 | 233,068 | 3,180,105 | 49,858  |
| 1972 | 6,965                      | 15,197 | 686                 | 15,906 | 127   | 70,294    | 2,940,939 | 193,973 | 3,215,660 | 44,494  |
| 1973 | 6,415                      | 14,984 | 670                 | 15,847 | 98    | 88,206    | 3,550,964 | 234,025 | 3,972,485 | 38,078  |

- ・数量中の計(広幅)には綿・スフ・毛・合繊・絹の織物が、価額中の計(含小幅)には小幅織物が含まれている。
- ・1947～49年上半年は武蔵織物工業協同組合、1949年下半年以降は武蔵織物商工協同組合の数値である。
- ・1949年9月に武蔵織物工業協同組合を改組し武蔵織物商工協同組合となり、上半期は旧構成員・下半期は減少した構成員の数値である。
- ・1958年度事業報告書より広幅織物生産量が碼からメートル表示に変わったので、それ以前の数値は0.8361を乗じて求めた。
- ・先染服地は1964年まで先染ブロード・先染服地、1969年まで先染服地・ギンガムとなっていた。
- ・出典：所沢織物商工協同組合資料No.342,1327,829,830,831,832,181,45,833,1325所収各年度事業報告書。

ときわめて大きい割合であったが、1955年度までが10%台、1956年度以降は10%未満であり、50年代後半以降は金額においても減少してゆく。第2に、合成繊維は1950年代後半から60年代前半にかけて一定の割合を占めるようにな

るが、高度成長期においては発展的展望を持ち得なかったという点である。合成繊維製品は1951年度以降登場してくるが、60年代前半をピークとして後退してゆく。結局、広幅の綿製品が圧倒的割合を占めていたのである。新しい素材に対応した製品開発や技術、さらには紡織一貫生産する大手繊維メーカーとの関係など、合成繊維を素材とした産地形成には、困難が大きかったようである。

図3は1960年代から90年代にかけての生産動向を示したものである。このグラフでは輸出用織物も広幅・小幅に含めてある。小幅織物が生産数量・価額ともますますわずかとなり、広幅織物が圧倒的割合を占めている。生産数量では1967年と1979年をピークとしているが、生産価額では1975年度に急増して1980年度にピークを迎え、それ以降は漸減している。このような生産数量と生産価額の異なる変動の背景には、表5で確認した合成繊維の伸びが60年代に見られたことによると思われる。

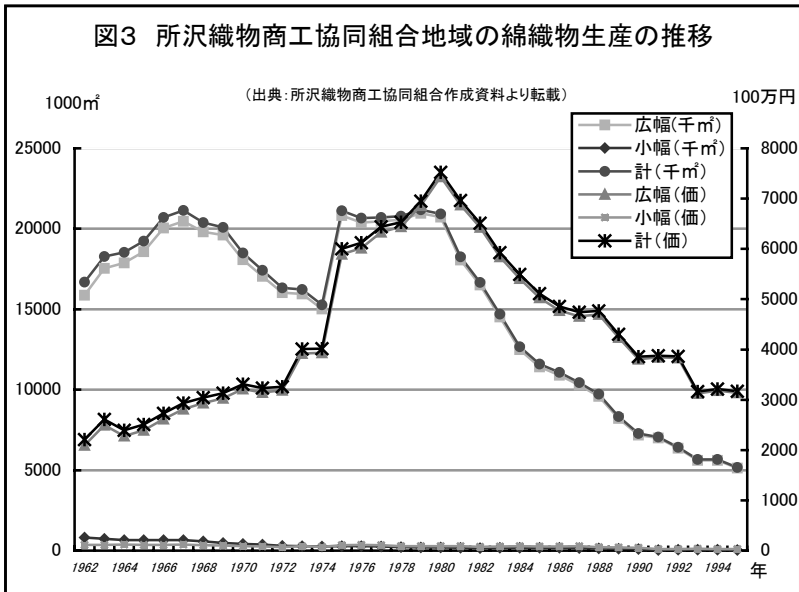


図4 所沢織物商工協同組合傘下業者の織物生産量

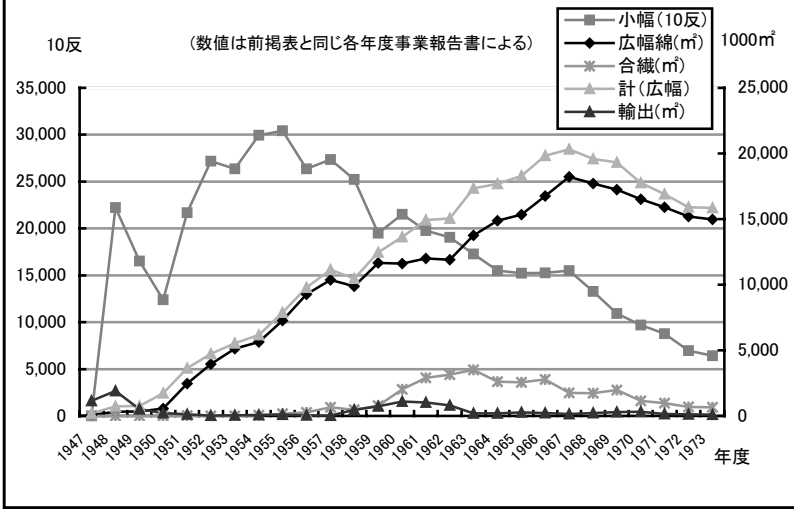


図5 所沢織物商工協同組合傘下組合員生産価額の推移

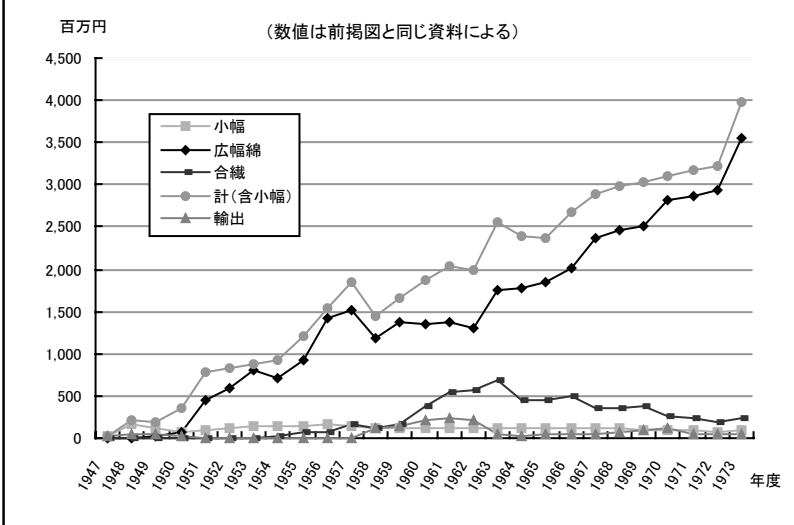




図4は所沢織物商工協同組合傘下織物業者の生産量の推移を、図5は生産価額の推移を表したものである。生産価額ではごくわずかの割合でしかない小幅織物も、1950年代半ばにはかなり増大しその後漸減傾向にあることが分かる。小巾織物の主要製品は夜具地、丹前地、縮といった綿製品であった。服装の洋装化に連れ需要が後退する中で、小幅織物織機が1959年度には過剰織機として供出されることにより、生産も大きく後退してゆく。

いっぽうこの地域の主力製品は広幅綿織物であり、生産量では1967年をピークに停滞しているが(図4)、生産価額では一貫して上昇傾向にある(図5)。

表6 所沢織物商工協同組合における広幅物主要製品生産高推移

| 年度   | 広幅 (1000㎡) |        |       |       |       |     |       |      |
|------|------------|--------|-------|-------|-------|-----|-------|------|
|      | スフ         | 敷布     | 先染服地  | タオル   | 変り織   | 風呂敷 | ババリー  | ハンカチ |
| 1947 | 81         |        |       |       |       |     |       |      |
| 1948 | 390        |        |       |       |       |     |       |      |
| 1949 | 135        |        |       |       |       |     |       |      |
| 1950 | 732        |        |       |       |       |     |       |      |
| 1951 | 1,023      | 545    | 17    |       |       | 283 | 59    |      |
| 1952 | 717        | 1,222  | 130   |       | 64    | 676 | 150   |      |
| 1953 | 405        | 1,709  | 245   |       | 105   | 616 | 712   |      |
| 1954 | 455        | 2,260  | 293   |       | 162   | 814 | 605   | 37   |
| 1955 | 414        | 2,935  | 467   |       | 149   | 824 | 967   | 134  |
| 1956 | 224        | 3,643  | 672   |       | 213   | 603 | 1,966 | 247  |
| 1957 | 126        | 4,654  | 955   |       | 199   | 499 | 2,013 | 309  |
| 1958 | 111        | 5,317  | 1,568 |       | 481   | 288 | 663   | 518  |
| 1959 | 17         | 7,187  | 2,170 |       | 679   | 215 | 182   | 716  |
| 1960 | 11         | 7,612  | 1,471 |       | 549   | 230 | 165   | 983  |
| 1961 | 25         | 8,491  | 1,107 |       | 412   | 251 | 135   | 962  |
| 1962 | 22         | 9,123  | 602   | 163   | 219   | 223 | 198   | 817  |
| 1963 | 20         | 9,691  | 657   | 631   | 461   | 63  | 815   | 770  |
| 1964 | 90         | 10,843 | 708   | 727   | 656   | 5   | 581   | 684  |
| 1965 | 344        | 11,046 | 1,121 | 582   | 588   | 37  | 725   | 645  |
| 1966 | 247        | 12,356 | 916   | 885   | 653   | 45  | 637   | 624  |
| 1967 | 299        | 13,181 | 493   | 1,150 | 1,255 | 43  | 929   | 571  |
| 1968 | 107        | 12,689 | 247   | 1,638 | 1,242 | 37  | 730   | 354  |
| 1969 | 43         | 12,216 | 139   | 1,773 | 1,456 | 18  | 772   | 345  |
| 1970 | 52         | 11,039 | 408   | 2,239 | 1,525 | 18  | 542   | 266  |
| 1971 | 0          | 10,311 | 526   | 2,280 | 1,578 | 16  | 715   | 112  |
| 1972 |            | 9,257  | 381   | 2,662 | 1,786 | 20  | 775   | 69   |
| 1973 |            | 9,135  | 366   | 2,577 | 1,853 |     | 805   | 69   |

・前掲表に同じ。

表7 所沢織物商工協同組合における広幅物主要製品生産価額推移

| 年度   | スフ(価額:1000円) |         | 広幅(価額:1000円) |         |         |         |        |         |         |
|------|--------------|---------|--------------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|
|      | 小幅           | 広幅      | 敷布           | 先染服地    | タオル     | 変り織     | 風呂敷    | ババリー    | ハンカチ    |
| 1947 |              | 1,207   |              |         |         |         |        |         |         |
| 1948 | 194          | 30,565  |              |         |         |         |        |         |         |
| 1949 | 259          | 11,404  |              |         |         |         |        |         |         |
| 1950 | 17,135       | 141,919 |              |         |         |         |        |         |         |
| 1951 | 15,079       | 179,724 | 67,496       | 3,136   |         |         | 32,426 | 21,165  |         |
| 1952 | 15,171       | 102,495 | 115,981      | 23,391  |         | 11,523  | 57,105 | 48,406  |         |
| 1953 | 22,706       | 68,186  | 134,391      | 45,283  |         | 19,416  | 32,240 | 224,362 |         |
| 1954 | 33,119       | 61,115  | 186,450      | 57,010  |         | 25,778  | 55,234 | 164,424 | 7,357   |
| 1955 | 55,365       | 61,066  | 247,771      | 71,700  |         | 19,020  | 50,439 | 253,981 | 23,705  |
| 1956 | 65,789       | 45,906  | 336,735      | 120,719 |         | 44,607  | 39,781 | 552,177 | 42,405  |
| 1957 | 52,594       | 17,122  | 431,471      | 161,850 |         | 39,321  | 33,354 | 528,965 | 59,019  |
| 1958 | 39,823       | 9,072   | 480,814      | 238,693 |         | 75,925  | 17,089 | 158,465 | 85,551  |
| 1959 | 32,983       | 2,912   | 711,222      | 309,696 |         | 113,353 | 14,589 | 47,280  | 112,390 |
| 1960 | 23,760       | 2,063   | 725,987      | 217,858 |         | 87,624  | 13,269 | 48,985  | 163,651 |
| 1961 | 24,474       | 3,062   | 835,548      | 173,867 |         | 69,146  | 14,128 | 46,018  | 148,008 |
| 1962 | 26,897       | 2,890   | 878,966      | 88,184  | 18,388  | 38,698  | 11,713 | 61,689  | 125,579 |
| 1963 | 21,443       | 2,680   | 941,486      | 107,199 | 106,087 | 100,405 | 3,605  | 268,383 | 116,060 |
| 1964 | 12,618       | 10,385  | 1,068,629    | 111,766 | 122,401 | 107,550 | 593    | 156,488 | 112,796 |
| 1965 | 6,236        | 44,290  | 1,095,680    | 163,849 | 89,471  | 114,204 | 5,140  | 192,544 | 114,145 |
| 1966 | 9,445        | 30,953  | 1,253,229    | 128,555 | 135,714 | 131,860 | 6,586  | 146,158 | 112,757 |
| 1967 | 4,593        | 49,274  | 1,399,999    | 81,196  | 177,988 | 290,174 | 5,433  | 188,714 | 108,078 |
| 1968 | 3,588        | 21,418  | 1,413,208    | 43,160  | 322,408 | 344,894 | 4,540  | 133,935 | 73,507  |
| 1969 | 635          | 5,163   | 1,404,838    | 24,149  | 361,083 | 423,455 | 2,554  | 137,774 | 78,497  |
| 1970 | 0            | 3,857   | 1,404,242    | 79,770  | 555,749 | 528,904 | 2,749  | 93,993  | 57,011  |
| 1971 |              | 0       | 1,349,317    | 97,570  | 639,355 | 547,630 | 2,607  | 112,288 | 23,804  |
| 1972 |              |         | 1,298,006    | 68,697  | 756,979 | 613,912 | 3,407  | 132,627 | 15,789  |
| 1973 |              |         | 1,561,732    | 87,214  | 860,283 | 849,585 |        | 121,660 |         |

・前掲表に同じ。

それ以降の発展状況については、図3で明らかかなように1970年代後半に新たな上昇を見せているのだが、小稿では高度成長期に限定して検討する。広幅織物の内訳を見ると(表6, 7)、首位は一貫して敷布が占めており、2位以下は、50年代前半はババリー、風呂敷、先染服地が優勢であり、50年代後半から60年代前半には先染服地やハンカチーフ、60年代後半にはタオル変り織が優勢となっている。このような変化は、市場の変化に対応して生き残りを図ってきた産地のさまざまな努力の結果でもある。

このような努力は個別経営の次元のみならず、産地に形成された協同組合

等の組織やさまざまな政策にも支援されている。産地においてどのような組織化と支援策が展開されていたのかを次に検討しよう。

#### 4 所沢織物商工協同組合の機能

この地域において産地織物業を支えていたのは織物業者によって結成された組合組織であった。1950年当時、武蔵織物工業組合が整理した前史によると、当該地域における同業者組織は以下のような変遷を辿っている。

- 1890年10月 同業組合準則による入間郡織物業組合設立
- 1903年12月 同上組合のほか所沢織物、武蔵青縞改良、武蔵絹布改良、武蔵白魚子織本場等の準則組合を統合し、武蔵織物同業組合設立（地域は入間、比企、大里3郡）
- 1908年12月 比企・大里郡業者分離、所沢市場集散業者のみの組合へ
- 1921年11月 所沢織物同業組合と改称
- 1935年11月 所沢織物工業組合設立
- 1944年10月 埼玉県織物工業統制組合へ統合
- 1947年4月 武蔵織物工業協同組合設立
- 1949年9月 小川、越生、飯能、川越、高階方面の業者を分離、旧所沢工業組合地域の業者の組合へ
- 1949年12月 中小企業等協同組合法による所沢織物商工協同組合に改組

1947年3月、武蔵織物工業協同組合の設立が認可されている。設立趣旨には、従来所属していた埼玉県織物工業統制組合が「指導者原理による統制団体」であり、その広範さと共同的施設の活用難という問題点が指摘されていた。「設立発起届」によると、組合地域は川越市及び入間郡、比企郡とされ、組合員資格には織物製造業者以外に「地区内に於て工場又は事業場を有し織物製造業を営む者を以て組織する協同組合、及任意組合」が含まれていた。初年度の組合員は有限会社武蔵織物工業所（代表 細田榮蔵、飯能町）、有限会社所沢毛織物工業所（同 野田直治、所沢町）、所沢織物工業組合（理事長 糟

谷宇平ほか9名、所沢町)、川越織物工業組合(同 市川政次郎、川越市)、飯能織物株式会社(代表 武久宗吉、飯能町)、飯能織物有限会社(同 森昇次郎、飯能町)、有限会社入間川織物工業所(同 多加谷乙末、入間川町) 越生織物工業任意組合(理事長 平田芳太郎ほか10名、越生町)、小川機業有限会社(代表 梅澤長、小川町)、高階織物工業組合(代表 小峰安太郎、入間郡高階村)、武蔵自賃織物工業組合(同 寺井榮一、飯能町)、小川織物工業組合(同 田口勘造、小川町)、野直織布工場(同 野田直治、入間郡水富村)、協和織物工業組合(同 倉片長治、所沢町)である<sup>23</sup>。

定款に規定された組合の目的は、「組合員の相互扶助の精神に基き、組合員のために必要な共同事業を行い、組合員の公正な経済活動の機会を確保し、以て組合員の自主的な経済活動を促進し、且つその経済的地位の向上を図る」(第1条)ことであった(この目的は商工協同組合にも継承される)。そして、「事業計画書」中の事業目的は、「主務官庁より割当てられた生産資材を組合員に配分し、之れが原材料を共同購入し製品の製造並に販売をなすと共に、農賃織物等の受託製造並に其の納入を為す」ことであった。そのために、1. 原材料等の共同購入・保管・運搬・販売等、2. 農賃織物の受託製造・納入、3. サイジング工場設営、4. 組合員事業に対する指導・研究・調査、5. 組合員の取扱品・設備に対する検査、6. 事業資金の貸付・貯金の受け入れ、債務保証・資金の調達・融資が、事業項目とされていた。

1949年12月には中小企業等協同組合法に基づく組合に改組され、名称も所沢織物商工協同組合へと変更される。それに伴い地元の買継商が加入し、産地の商工業者が一体となった組織体制へと転換する。発足時の組合員構成は、織物製造業者57名、買継商8名、染色業者11名、原料商9名、捺糸業者11名(1950年3月現在)であった。初代理事長に飯能町の飯能繊維工業株式会社代表平岡良蔵、専務理事に同町の所沢毛織株式会社代表細田栄蔵、常務理事に入間川町の有限会社入間川織物工業所代表多加谷乙末、その他の理事19名、役員構成は織物製造18名、買継商、染色業、原料商、捺糸業各1名という構成であった。出資口数は表8のとおりである。1953年及び1957年には、大幅

表8 武蔵織物工業協同組合出資口数別組合員・口数異動

| 年度   | 5口以下 |     | 6口以上 |    | 10口以上 |     | 20口以上 |     | 30口以上 |     | 50口以上 |     | 100口以上 |        | 合計  |        |
|------|------|-----|------|----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|--------|--------|-----|--------|
|      | 員    | 口   | 員    | 口  | 員     | 口   | 員     | 口   | 員     | 口   | 員     | 口   | 員      | 口      | 員   | 口      |
| 1947 |      |     |      |    | 2     | 20  | 2     | 40  | 2     | 75  | 3     | 150 | 5      | 455    | 14  | 740    |
| 1948 |      |     |      |    | 5     | 50  | 3     | 60  | 2     | 75  | 3     | 150 | 5      | 455    | 18  | 790    |
| 1949 | 56   | 168 |      |    | 21    | 215 | 9     | 180 | 5     | 150 | 6     | 314 |        |        | 97  | 1,027  |
| 1950 | 63   | 187 |      |    | 22    | 236 | 7     | 148 | 5     | 153 | 10    | 535 |        |        | 107 | 1,259  |
| 1951 |      |     |      |    |       |     |       |     |       |     |       |     |        |        |     |        |
| 1952 | 72   | 213 |      |    | 24    | 256 | 7     | 148 | 5     | 153 | 10    | 535 |        |        | 118 | 1,305  |
| 1953 | 62   | 183 |      |    | 27    | 287 | 8     | 168 | 3     | 93  | 4     | 205 | 13     | 6,970  | 117 | 7,906  |
| 1954 | 60   | 173 |      |    | 28    | 297 | 8     | 168 | 3     | 93  | 4     | 205 | 13     | 6,970  | 116 | 7,906  |
| 1955 | 60   | 173 |      |    | 28    | 297 | 8     | 168 | 3     | 93  | 4     | 205 | 13     | 6,970  | 116 | 7,906  |
| 1956 | 63   | 179 |      |    | 29    | 311 | 7     | 148 | 3     | 93  | 4     | 205 | 13     | 6,970  | 119 | 7,906  |
| 1957 | 41   | 121 | 6    | 42 | 18    | 218 | 9     | 195 | 6     | 215 | 13    | 851 | 25     | 18,364 | 118 | 20,006 |
| 1958 | 41   | 121 | 6    | 42 | 18    | 218 | 9     | 195 | 6     | 215 | 13    | 851 | 25     | 18,364 | 118 | 20,006 |
| 1959 | 41   | 121 | 6    | 42 | 18    | 218 | 9     | 195 | 6     | 215 | 13    | 851 | 25     | 18,364 | 118 | 20,006 |
| 1960 | 30   | 85  | 6    | 42 | 19    | 224 | 12    | 255 | 5     | 185 | 14    | 945 | 24     | 18,270 | 110 | 20,006 |
| 1961 | 28   | 75  | 6    | 42 | 20    | 234 | 12    | 255 | 5     | 185 | 14    | 945 | 24     | 18,270 | 109 | 20,006 |
| 1962 | 28   | 75  | 6    | 42 | 20    | 234 | 12    | 255 | 5     | 185 | 14    | 945 | 24     | 18,270 | 109 | 20,006 |
| 1963 | 36   | 101 | 6    | 42 | 22    | 254 | 12    | 260 | 5     | 185 | 13    | 894 | 24     | 18,270 | 118 | 20,006 |
| 1964 | 36   | 101 | 6    | 42 | 21    | 239 | 12    | 260 | 5     | 185 | 13    | 894 | 23     | 18,285 | 117 | 20,006 |
| 1965 | 36   | 101 | 6    | 42 | 21    | 239 | 12    | 260 | 5     | 185 | 13    | 894 | 23     | 18,285 | 117 | 20,006 |
| 1966 | 36   | 101 | 6    | 42 | 21    | 239 | 12    | 260 | 5     | 185 | 13    | 894 | 24     | 18,285 | 117 | 20,006 |
| 1967 | 35   | 98  | 6    | 42 | 21    | 239 | 12    | 263 | 5     | 185 | 13    | 894 | 24     | 18,285 | 116 | 20,006 |
| 1968 | 35   | 98  | 6    | 42 | 21    | 239 | 12    | 263 | 5     | 185 | 13    | 894 | 23     | 18,285 | 115 | 20,006 |
| 1969 | 35   | 98  | 6    | 42 | 21    | 239 | 12    | 263 | 5     | 185 | 13    | 894 | 23     | 18,285 | 115 | 20,006 |
| 1970 | 32   | 92  | 5    | 35 | 22    | 252 | 12    | 263 | 5     | 185 | 13    | 894 | 23     | 18,285 | 112 | 20,006 |
| 1971 | 32   | 92  | 5    | 35 | 22    | 252 | 12    | 263 | 5     | 185 | 13    | 894 | 23     | 18,285 | 112 | 20,006 |
| 1972 | 32   | 92  | 5    | 35 | 22    | 252 | 12    | 263 | 5     | 185 | 13    | 894 | 23     | 18,285 | 112 | 20,006 |
| 1973 | 32   | 92  | 5    | 35 | 22    | 252 | 12    | 263 | 5     | 185 | 13    | 894 | 23     | 18,285 | 112 | 20,006 |

・表中の口＝口数、員＝員数

・1949年度より組合名称は所沢織物商工協同組合となる。

・注記によると組合員数は1969年以降には買次商等の脱退者があり実質的には減少、71年以降には脱退者があったので減少している。

・出資額1口：1947年250円。

・出資金額は60年1000.3万円、73年1000.3万円。

・所沢織物商工協同組合資料No.1327, 829, 830, 831, 832, 181, 145, 833, 834, 1329参照。

に出資口数を増大させ、事業拡大に臨んでいる。この組合が取り組んだ事業は、やはり織物業者のための共同経済事業であった。その中心は仏子に設けられた工場施設であり、整理、染色や仕上げ工程に関わる諸事業を担った。各年度の事業報告書には、組合員の要望に応じて施設が整えられ、製品の市場価値を高める上で大きい貢献を果たしていることが窺える。そこで、この組合の事業全般を理解する上で有効な事業報告書の記述を要約しておこう（表9）。

表9 所沢織物商工協同組合事業の推移

|             |   |
|-------------|---|
| <p>1947</p> | <p>県知事、商工協同組合法により入間・比企・川越市の織物製造業者による武蔵織物工業協同組合設立認可、発起人総代細田栄蔵。</p> <p>生産：「本組合員は幸いに戦前より輸出綿布には多くの実績を経験を有し其の設備も多くの広幅織機がありましたので、戦後早くより輸出綿布の生産に着手し…一面内需織物に於いては絹織物及人絹織物として国民衣料の確保に尽力…。本組合転廃業者に対し綿スフ織機106台の復元承認があったので…輸出織物の生産に拍車を加へるに至った…。共同施設として整理梱包工場の完遂を見て輸出織物の振興に寄与する処あり、同業者の緊密なる結合と相俟って、発展の道程を辿り好成績を収めつつある」</p> <p>組合割当の糸消費量（表）・割当量に対する生産品名・数量予定（表）</p> <p>販売：輸出綿布は繊維貿易公団の取扱業者へ引き渡し、内需綿スフ織物は出荷指図書に基づき引き渡す。内需絹人絹織物は埼玉県繊維配給株式会社引き渡しだったが、9月衣料品配給規則制定により、登録販売卸売業者へ引き渡しとなった。販売は、9月に公定価が改定されたので活発の動きを見るに至った</p> <p>営業物資供給：副資材の供給は、主として綿スフ織物工業会或は日本絹人絹織物工業会又は商工局等の割当。「其の量至って少なく常に不足」</p> <p>資金貸付・借入：比較的小工場が多いので概して自己至近にて賄ひ得た。原料糸即生糸の価格は昭和21年7月以降2回も昂騰し、9,000円基準から15,000、41,000円基準と非常な昂騰振り→購入資金に著しく困難→「組合に於て一括資金の借入をなし原糸を一括購入」指導・奨励・研究・調査：広幅織物部会、小幅織物部会を設置、毎月例会開催、研究発表、相互協調</p> <p>共同施設：「組合の目的は共同施設に在るを以て…輸出綿布の梱包機設置と整理工場の開設に着手…組合市域の中核たる入間郡飯能町仏子に設置する事となった」。総額百万円の予算で、中小工業共同施設補助金より23万円交付</p> <p>綿スフ織機復元：22年6月転廃業者復帰期成同盟会を組織、22年11月県商工部長より106台復元承認指示→復元台数106台、復元者：細田兵助外23名</p> <p>生産概況：＜輸出綿布＞上半期当初、糸入荷不円滑・染色遅延、期末には順調、下半期、11-1月電力事業頓に悪化→創業能力低下。＜内需綿スフ＞原糸入荷不足→生産に支障あり。農村作業衣用紺紺・紺織は下加工の手不足のため進捗せず遺憾＜内需絹人絹織物＞原糸入荷遅延・染料不足・電力不足→好成績を見ず、生絹及人絹平等概して生地物のみ生産</p> |
| <p>1948</p> | <p>事業概況：「綿スフ復元者の設備も完了を遂げ、1万台増設による絹人絹織機の設備も決定されて生産体制も整ひ…。経済安定9原則の実施に伴ひ生産方式の移行、単一為替レートの設定或は金融逼迫による絹製品の購買不振…多事多難裡に本年度を経過…。＜綿スフ織物＞計画生産によって委託加工を受けた輸出綿布：前半期…大体順調、後半期…原糸の入荷頓に悪く→操業低下。24年2月以降、国有綿払い下げと共に従来「計画生産」が「注文生産」を主としたものに転換→「非常に不利」、新製品の制作やサイジング工場の設立により「生地織物の振興」による増産。内需綿スフ織物…前年度比1割6分の割当減→操業緩慢の状態。＜絹人絹織物＞内需織物のみ。割当方式は大体リンク制。前年度に比し増加。「原糸の異常な高騰と公定価格の値上がり」→購買力減殺、「就中銘仙級のものは殆ど売買成立せず」→「企業の合理化」や「製品の向上によって不振打開に努める一方小幅織機を広幅織機に改造して輸出絹人絹織物の製織を目指し」販路開拓に努力。</p> <p>組合割当の糸消費量：（表）・生産すべき品名・数量：（表）</p> <p>販売：＜輸出綿布＞従来通り委託加工につき前半迄は頗る順調、後半に見込・注文生産に移行→商社又はバイヤーへ直接売り渡すことになった。しかも為替レート・取引の政府承認といった制約のため「未だ活発の動きを見ず」。＜内需綿スフ織物＞原糸入荷遅延による緩慢状態。＜内需絹人絹織物＞上半期好調、下半期は原料糸高騰→公定値改定、しかし「9原則の実施に際し経済事情は非常に悪化」→購買力減退、「銘仙級製品は二三割安さへ稱へられ」鈍調気配、交織物・人絹織物も「販売状況は好しからぬ状態」</p> <p>営業物資供給：副資材の供給は前年度に比し稍潤沢（表）</p> <p>資金貸付・借入：「原材料の高騰と営業不振に加へ融資の不円滑に事業資金は相当枯渇を</p>   |

|             |  |
|-------------|--|
|             | <p>来たした」。一括借入・貸付は「非常に多額になり融資の面に於ても困難につき本年度に於ては之を行はず…主として斡旋に努め」た。</p> <p>指導・奨励・研究・調査：広幅織物部会、小幅織物部会を綿スフ織物、絹人絹織物部会に改称。シフォン、ベルベツト、ピッケ、綿ポプリン等高級織物を奨励</p> <p>共同施設：梱包機工場は前年度完了。整理工場は七月完了、九月開始。しかし機械の破損のため操業日数少ない。（整理・梱包の表）</p> <p>ガラ紡織機及特紡織機の確認：23年8月ガラ紡織機・特紡織機復元認可→転雇業者中復元希望相当あり→ガラ紡19台、特紡9台承認内定</p> <p>組合員異動：新規加入：野原工業株式会社（川越織物工業組合より分離独立）、関東織物工業組合（代表：細田兵助、所澤町）、南部川越織物工業組合（川越市）、共榮織物工業組合（高麗村）。高階・小川・川越・越生・所沢・南部川越の各任意組合は協同組合へ改組</p> <p>生産概況：＜輸出綿スフ織物＞「委託加工品も出荷にリンクして相当あり、電力関係も稍緩和されたため操業率は上昇し、製品の種類も仁斯、ポプリン、天竺等の新製品が製織せられ、上半期は相当増産…下半期に入り生産方式が従来の計画生産から注文生産に移行せられたると紡績側の見込生産過多による原糸未出荷の為に障害及単一為替レートの設定等貿易事情の変革によって操業率は低下」。＜絹人絹織物＞「大體60%の操業率を示し稍好調…9月に…登録販売業者の発足によって俄かに取引活況…金融逼迫は年末に至って極度に悪化し購買力の減退著しく為めに人絹織物及交織織物以外は売行き殆んどなく所謂原料高の製品安…操業不振」（昭和23年度生産状況表）</p>   |
| <p>1949</p> | <p>事業概況：「終戦後始（ママ）めて見る大不況に直面…。統制経済が漸次緩和或は廃止され自由経済方式が採られ…有効需要の減退とシャブプ勧告による税制の改革により40有余年間に亘り継続された織物消費税の廃止問題に纏って商社の極度に買控へ…本年度は終始不振」。＜綿スフ織物＞「輸出綿スフ織物にあっては注文生産方式に移行されてより輸出の受注は殆ど大企業たる紡績会社の専行する処」→小規模専業者「下請加工に依存」、「加工賃が余りにも採算不都合」、「4月に至り単一為替レートが1弗360円に決定…甚だ不振…。25年1月より輸入貿易も民間に委譲され…対外的には好調の気配を示したが…下請加工によるの外なく…本年度は概して不振…。内需綿スフ織物…依然割当形式…原糸の入荷は…遅れ勝ち…。スフ糸の交織が7月より撤廃となり更に25年2月に至って完全に撤廃されたため業者は断然特紡糸或は人絹糸、生糸等非統制品の交織に転化…稍操業の緩和を見た…。織物消費税撤廃と年末金融の異常なる逼迫」→一部休機。「年度末期にスフ、サージ或は敷布等の売行きは相当好調…輸出織物に比し内需は稍好調」。＜絹人絹織物＞「企業の合理化を図り需給の調整に努力したが…需要面に於て金詰りのため絹織物の購買力が著しく減殺…。7月に至り絹糸及絹織物の統制が撤廃され、同時に人絹糸、スフ糸の交織が認められ、更に10月25日には人絹及人絹織物の統制が外され茲に絹人絹織物は全面的に自由の生産機構となったが、購買力は依然悪く、而かも原料糸は昂騰」。織物消費税撤廃問題→問屋や消費面に影響、「取引皆無」→「同盟休機を決定…本年度は甚だしき不況」</p> <p>組合割当糸消費量：（絹糸は統制撤廃の関係で上1四半期のみ、人絹糸は2四半期まで）（表）</p> <p>販売：＜輸出綿布＞「紡績会社或は貿易商社の下請加工」のため懸念なし。＜内需綿スフ織物＞「一般衣料不足の折柄と限られた割当…滞貨等は殆んどなく稍順調」、11-2月鈍調→スフ糸の統制撤廃と綿織物の生産品目が自由化→「敷布或は紺サージ等の製織に当たったため売行き好調」。＜内需絹人絹織物＞「統制の緩和から撤廃へと移行…が原料糸は異常な高騰したが「消費面の金詰まり・問屋方面の滞貨整理或は消費税廃止…販売値は下落…取引停止…終始不況」</p> <p>営業物資供給：副資材も順次自由に入手（表）</p> <p>資金貸付・借入項：「本年度に於ては直接組合員に対し資金の貸付は実施に至らなかった」が人絹織機改造資金、米国対日援助見返資金融資</p> <p>事業改善・教育・情報提供：10月の機構改革で部会→委員会制（綿スフ委員会：委員長糟谷保平、絹人絹委員会：同 細田芳太郎、金融稅務委員会：同 多加谷乙末、共同施設委員会：同 野田直治。*織物関連業者（買継、染色整理、捺糸業、原料商）加入、25年1月より製造業者と関連業者が一体で毎月一回織物意匠研究会開催</p> <p>共同施設：梱包機利用は輸出織物の受託少なく不振、整理機の利用は銘仙及び人絹織物等内需織物の利用あるも「成績良好ならざりし」（表）</p> |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>総会決議事項：24.9月越生組合外8組合脱退承認、10月共栄組合外3組合脱退承認、糟谷宇平外64名加入承認、*11月中小企業等協同組合への組織変更・定款変更可決、12月所沢織物市日開設可決</p> <p>その他（機構改革）：9月越生、飯能、高階、川越、小川、武蔵白質の各組合、飯能有限、飯能株式、小川機業の各会社脱退、主として旧所沢織物業者のみとなったので、「従来の統合体加入をすべて個人加入とし」、12月新協同組合の登記完了、「事業協同組合の確立を見た」=所沢織物商工協同組合（買継・染色・捺糸・原料商も組合員へ）、所沢織物市場も再開（役員・組合員一覧）</p> <p>自治検査：絹人絹織物の統制撤廃により絹人絹織物検査協会所沢出張所閉鎖、24年12月臨時総会で製品検査規程制定、翌年より自治検査開始</p> <p>所沢織物市場の開設：所沢買継商復活、販売機関へ。毎週月曜日を市日25.1.9より</p> <p>同盟休機：織物消費税転配の早期報道と年末金融の不円滑→11月以降市況頗る不況→12.1-15休機、投売乱売を自粛、2.27業者大会、3.31まで再度休機</p> <p>生産概況：本年度に入って更に悪条件が続出→不振の操業状態、「特に絹人絹織物にあっては甚しき不況」、&lt;綿スフ織物中輸出織物&gt;ヘヤコード、朱子、ピッケ等一部新製品の受注生産によって新生産を開いたが、「前年度末多くの生産を見た綿三綾、ティッキング、金巾等の受注が著しく減少」。&lt;内需綿スフ織物&gt;割当増加、スフの統制解除と綿織物の生産品の指定が解除された等により、「操業上幾分緩和…太縞、ギャバジン、別珍等の製品も製織せられ相当好調」、ただし輸出綿糸好況のため内需綿糸出回り非常に遅延。&lt;絹人絹織物&gt;7月絹織物の統制解除、10月人絹統制枠から除外→自由生産→「最も特技として生交織品の生産に移行…とりわけ値頃品たる人絹の夜具地、平地、鉸仙類と絹人絹織物の服地等は前年に比し増加」。織物消費税撤廃の声に「先安見込」で取引減退→12月中旬同盟休機。生産表あり、ただし上半期分離組合員を含み、下半期は減少した組合員のみ</p> <p>組合員名簿：製造67名、買継商8名、染色業11名、原料商9名、捺糸業2名</p>   |
| 1950 | <p>生産：4月以降は品薄による市況の好転。生糸相場の不安定から漸次人絹織物、スフ織物へ転換、「これ等の製品は相当好調」。「6月25日突如発生した朝鮮動乱は業界に異常な旋風を起し、世界的軍拡風潮は輸出の好転をもたらし特需期待は綿糸布を始め人絹、スフへの買気をあほり、各種繊維の騰勢は著しきものあり。8月上旬には6月の2.5倍以上にまで昂上し、製品またこれに追隨して好調」、しかし8月下旬には反落、原糸の入手難→市場は遂に恐慌状態に陥った。本組合は乱売阻止の申し合わせと共に有担保で融資。10.3政府は価格安定・流通円滑化のため「基準価格」を設定。内需物は原糸高の製品安が顕著。「組合員は必需品たる丹前地、或は夜具地、広幅物に於ては婦人児服地及び紺サーズ等を生産…稍平常の商況」。12.16トルーマン大統領の非常事態宣言→原糸高騰、取引値は漸落、年度末に於ける業界の前途は甚だ不安。&lt;絹人絹織物&gt;昨年10月統制撤廃以来「競争は激しく嗜好の変化と流行意匠の追隨に大きな悩み」。朝鮮動乱→原料糸統騰、反動的下落により買付不能・採算割れ→操業度低下。後期冬物は交織丹前地、交織夜具地、広幅物の児服地は生活必需品につき「概して順調」。「尚、最近の需要傾向は生活様式の変化に従ひ広幅物に移りつつあるを以て漸次広幅織機の設備をなすに至」っている。</p> <p>組合割当消費量：消費統制は綿糸のみ（割当表）</p> <p>販売：25.1月所沢市場再開→東京方面、関西方面、東北、北海道方面にも延長せられ販売先を確保。スフ織物、広幅物は紺サーズを主と児服地、敷布、風呂敷、別珍等好調、朝鮮動乱後後半は頗る不振。絹人絹織物、人絹スフ交織、綿糸交織等の小幅物は主として丹前地、夜具地、白格子物等実用的製品は相当好調、「特に丹前地にあっては交織技術を買はれ所澤特産品として販路の確保」、しかし後半期には原料高の製品安→不況</p> <p>競技会・求評会・展示会：8月所沢織物競技会開催（戦後第1回）。審査は関東・関西の有力問屋25店</p> <p>共同施設：輸出織物が注文生産方式となって以来採算不引合のため受注量少なく、下請け製織も未梱包のまま出荷→予期の成績収め得ず。整理工場は、「組合員製品が漸次整理仕上を要するものに遷ったため利用頗る多く、殊にレース織物の整理加工…全面的に本工場を利用」。服飾業界が「地風の変わった技術的製品でなければ消費面を把握」できなくなり、捺糸機械が必要となった。総額420余万円、県助成金125万円で、51年1月設備完了。同時期に県繊維工業指導所が設備経営していた染色工場、瓦斯焼工場、紡績機械、</p> |



|             |   |
|-------------|---|
|             | <p>汽織、整理工場、漂白工場等を委譲された。</p> <p><b>資金貸付・借入</b>：8月の業界恐慌時埼玉銀行所沢支店より製品担保にて融資の斡旋。共同施設燃糸工場設備に対しては「米国対日援助見返資金」300万円借入。</p> <p><b>事業改善・教育・情報提供</b>：各地の視察、部会（丹前会、服地会：製品に所沢丹前会、所沢服地会の御章付与、26.1月より小幡部会、広幡部会と改称、意匠の研究・経営全般も研究。所沢織物互進会結成：風呂敷地、敷布25.8結成し輸出敷布を共同製織・輸出商社に提供。染色部会：26.1月従来の「二十日会」を組合内の染色部会へ改組、新繊維の染色技術向上を目指す。博覧会・物産展への出品：全国6カ所のそれらに出品</p> <p><b>その他（1.定款変更）</b>：26.4月組合地区に所沢市追加、理事定員2名増等。</p> <p><b>同盟休機</b>：26.4.9業者大会、投売防止・価格維持のため4.30まで休機申し合わせ</p> <p><b>電力割当方式変更の陳情</b>：25.4通産省告示で実績の88%割当→生産意欲阻害・超過使用電力による生産コスト増→産地衰退ということで、割当増を陳情、追加割当実現へ</p>   |
| <p>1951</p> | <p><b>定款変更</b>：中小企業等協同組合法一部改正による→代表理事選任</p>   |
| <p>1952</p> | <p><b>生産</b>：「綿スフ業者にとって誠に苦難に満ちた年度」。「所沢産地に於ては幸ひにブロード縞服地或はギャバジン、ピッケ別珍等高級綿布、又一般大衆向の敷布、風呂敷、夜具地、丹前地等実用的製品に力を致したため一般不振のうちにも稍無難に年度を終わった」。</p> <p>＜綿スフ織物＞輸出織物は不引合のため殆ど生産せず。内需綿織物は、「消費者の要求が立体的のものに遷り変り来たので…ポプリン、ババリー、ギャバジン、ギャバジン、ギャバジン等高級綿布が多く好まれる」のでそれらへ移行、風呂敷、敷布の需要又多く」前年度の2倍余の増産、小幡物では主として夜具地、丹前地の需要多く増産。スフ織物はサージ、服地類を主としたが綿織物を主とするに至ったので漸次減少、小幡物は黒八丈を除いて減少。</p> <p>「要するに綿スフ織物としては、冬物に於ては甚だ不振」。</p> <p>＜絹人絹織物＞絹織物は主として大島紬が稍順調、人絹織物は広幅では特殊織物のシフォン、ベルベット朱子等に限られ生産僅少、小幡では値頃品として大衆向の人絹丹前地は本年度も好評、他は概して低調。湖月、明石の復活が試みられた。</p> <p><b>販売</b>：業界、終始不活発。「当産地は従来より多角生産方式を採り実需面に応じて生産の緩急を図り、而かも実用的製品に力を注いだので比較的売れ行きよく、ブロード縞服地、及綿縮、風呂敷、敷布等は順調</p> <p><b>資金貸付・借入</b>：原糸の激しい価格変動、電力事情の悪化、組合員の事業経営は相当困難→金融逼迫、銀行融資の利便を講じたほか、商工中金融資の道を開いた。（表あり）</p> <p><b>共同施設</b>：仏子工場に3本ロールカレンダー、ハンクマーセライズマシン新設（397万円、綿風呂敷ロール掛け、仕上げ）、湖月上布用燃糸利用「相当の成績」。主たる設備：整理部…巾出機・3本ロールカレンダー・霧吹機・シリンダー乾燥機・瓦斯焼機、燃糸部…燃糸機・繰返機、起毛部…起毛機、染色漂白部…シルケット機、梱包部…梱包機</p> <p><b>事業改善・教育・情報提供</b>：1.他産地視察：佐野、今治、2.各部会：イ小幡部会…湖月上布、湖月明石復活に努力、ロ広幡部会…「所沢の現況は広幡織物が主体」であり、高級綿布製織を目指す、ハ所沢織物互進会…規格品の統一と証紙貼用の励行→所沢風呂敷の声価は益々高く、生産量は前年の2.4倍、敷布も2.2倍、今治で敷布の晒状視察、3.創作上の競技会及び図案展開催：8月秋冬向競技会（497出品）、10月有力問屋・行政官庁との改善懇談会、3月春夏向競技会（457出品）</p> <p><b>宣伝即売会</b>：11月、所沢商工会議所主催所沢商工祭り で宣伝即売会14.3万円売上</p> <p>12月、所沢織物買継商組合より、口銭含みの取引制度実施申入れ</p> |
| <p>1953</p> | <p><b>生産</b>：朝鮮休戦協定の成立、下半年日銀の高率適用強化による金融の異なる引締め→倒産商社の続出→国内景気は頗る沈滞→そのため2.15-3.15、5割操短実施＜綿スフ織物＞輸出織物：甚だ低調、内需綿織物：消費者嗜好が「実質的にして而かも優雅な立体感のある製品」、本組員は「高級綿布即ちポプリン、ババリー、先染服地、変り織の外別珍、コール天の生産を継続」し前年比35～50%増、「一般大衆品としての敷布、風呂敷においても40%の増産」、「全般を通じて広幡綿布は29%の増産」。小幡織物：夜具地、丹前、縞及び緋縮、白格子等は増産、市況不振のため「小幡全体としては遺憾ながら6%の減産」。スフ織物：サージ及び服地を主。服地は8%の増、全体では43%の減少、樹脂加工設備がないことが不利。＜絹人絹織物＞一般不況のため「甚だ不活発」、絹織物の大島紬は原料糸高騰のため「原料高製品安」、取引商社の倒産の余波、「生産操業も前年度に比し低調」。人絹織物及び交織織物：広幅は朱子、小幡は丹前、着尺地を生産、「値頃</p>  |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>品」なので相当量の生産だったが、前年比26%減。</p> <p><b>販売項：</b>休戦協定成立、金融引き締め、政府の緊縮予算のため「業界は全く萎縮状態」→甚だ不活発。しかし「適時実需に応じての生産に従事したため、比較的順調な売れ行きを見、敷布、風呂敷、黒八等は相当売行きよく。「年度末にかけて多くの倒産商社あり、本組合員も従来より関係があったためこれが打撃多く」</p> <p><b>資金貸付・借入：</b>9月以降金融引き締め政策のため融資や手形割引が抑制された。埼玉、商工中金に加え三菱銀行に融資を求め組合員の利便を図った。(融資表)</p> <p><b>共同施設：</b>多種多様、高級な製品の加工のため16本シリンダーの新設、スフ糸の完全染色のため自動総糸染色機設置、ピースマーセライズ機を11月に据え付け完了→「所沢高級綿布の確立」(シルケット加工のための機械)。本施設費1,500万円、国庫補助110万、県補助290万、所沢市10万、飯能市7万円の助成金。シルケット部新設。</p> <p><b>事業改善・教育・情報提供：</b>1.視察：小千谷、見附、栃尾→化繊糸染色のための自動総糸染色機設置の必要性確認。2.各分会：所沢織物互進会：敷布、風呂敷製造・買継・染色業者27名、規格の統一と改善。3.新製品の競技会及図案展の開催：8月秋冬向競技会、3月夏物競技会、11月染色技術競技会。博覧会及び展示会への出品(表)</p> <p><b>その他(出資金第2回払い込み・増口)：</b>「共同施設工場の施設拡充」のため、出資金増、補助金申請→1口500円中半額のみだったのを全額へ(1305口=32.6万余円)、国庫補助申請時「出資の過少が難点」だったので増口勧誘→6600口増→計7906口395.3万円の出資額へ</p> <p><b>操短：</b>11月以降毎月有力商社の倒産続出→2.15臨時総会で「申し合せ」：「生産の調整を図ると共に製品の価格維持のため更に投売、乱売を厳に慎むこととし、本日より向ふ1ヶ月間5割の操短を断行し、以てこの危機を突破せん」</p> <p><b>危機突破大会と繊維税課税反対運動：</b>29年3月、織物消費税復活29年度より実施の企図を聞知→大宮市で挙行</p>   |
| 1954 | <p>生産：デフレ政策続行・金融引き締め→商社倒産→産地へ波及→全国危機突破大会。当産地は、上半期甚だ不況不振、下半期稍小康状態。中小企業安定法29条2項発動=綿スフ織機設備制限施行→綿調連は総合調整計画実施として1割2分の生産制限。&lt;綿スフ織物&gt;輸出織物：梨地織の下請生産のみながら前年度比50%増産。内需綿織物：高級綿布のパバリー、ポプリン、先染服地、大衆向の敷布、風呂敷、夜具、丹前地等の多種多様製品、前年度と大差なき生産量。「所沢が誇る高級綿布はマーセイラズ加工の設備が仏子工場に完備して以来一層製品が高度化」→授業確保。「特異的傾向」は風呂敷、敷布の需要著増=28-30%増。広幅スフ織物：新製品としてモスリン、巾巾、スレーキ等生産。サージ、服地減産だが、合計で12%増。「更に特筆すべきは化学繊維の活用に業者が注目し…ナイロン、ビニロン、或はサランを使用…所沢織物に一新紀元を齎らした」。小幅綿スフ織物：以前夜具、丹前地を主体、色織、黒八、メ切餅等前年度比35%増。特に綿縮が「頗る好評」→「所沢綿スフ織物物は比較的順調」。&lt;絹人絹織物&gt;「全般的市況不振に祟られ甚だ不活発」、48%の減産</p> <p><b>販売：</b>「常に各種の機会をとらへて宣伝紹介に努め、本県主催の展示即売会、或は全国産地競技大会及び集散地市場の宣伝会等々に参加したる外管内買継商においても集散地市場は勿論のこと東北、北海道方面にも販路を求めた</p> <p><b>資金貸付・借入：</b>商工中金、三菱銀行と「格別の連繋を保ち」、三菱より製品担保で300万円の融資枠(表あり)</p> <p><b>共同施設：</b>前年度設置のピースマーセライズ機が「所沢高級綿布の高度化」に貢献。化繊織物樹脂加工に使うベーキング機を完成(国、県より補助あり)。敷布用原糸のシルケット加工について「卓抜なる技術を獲得し敷布の需要を増加せしめた」。</p> <p><b>事業改善・教育・情報提供：</b>小幅部会：東京丸紅、丁吟、神野清五郎商店招聘、意向聴取。買継商による有力問屋招聘→評議会。全国競技会、展示即売会開催。29.8.10中小企業等協同組合法施行5周年記念として中小企業庁長官より優良組合として表彰。繊維危機突破大会(全国織物生産都市代表桐生市長、全国織物生産業者代表、日本絹人絹織物工業会会長主催、東京、29.6.15)</p> <p><b>不況対策休機申し合せ：</b>デフレ政策に基づく金融引き締め→「極度に消極的な商取引」→「製品価値維持のためにも相互自粛を要する処」→29.6.28組合員総会で7月いっぱい休機断行</p> <p><b>商況：</b>デフレ政策、金融引き締め→集散地問屋の取入れが極めて慎重→本年度も概して</p> |

|      |   |
|------|---|
|      | 好成績を見るに至らず  |
| 1955 | <p><b>生産</b>：生産に関する事項：上半期においては依然デフレ政策の余波→金融引締め、集散地間屋の消極的仕入れ。下半期に大豊作と輸出の好転、金利の引き下げ→一般不振のうちにも概して無難に本年度を終わった。＜綿スフ織物＞輸出綿織物：梨地の外に縞3線の注文、依然低調。内需綿織物：高級綿布のポプリン、タッサー、ババリー、先染ブロード服地、大衆向けの敷布、風呂敷、別珍、小幅物の丹前地、夜具地、綿縮が主体、広幅は前年度比29%増、敷布著増、ハンカチーフ地3倍。小幅スフ織物及び交織織物は主として丹前地、黒八、メ切緋の交織織物、値頃と柄行が時流に適したので前年度比51%増。＜合成繊維＞化学繊維の発達は著しきものがあり、管内業者も前年度来逐次製品化。「本年度においては更に一步を進めナイロン、或はビニロンを応用したポプリン、ババリー、サージ及び敷布等の製品が生産され今後一層発展の気運」。＜絹人絹織物＞「本組合の主体が綿織物である関係上絹人絹織物は漸次減少、前年度比28%の減産。以上の生産概況によって本年度の生産総計高は前年度比広幅も伸す雨量で28%増、小幅で1.5%の増、価格で30%増、12億を突破。</p> <p><b>販売</b>：上半期は消極的、下半期は相当好調。敷布、風呂敷は「四六時中需要を見」、広幅織物は高級技術が買われて商社特別の注文生産に追われ、小幅においても丹前、綿縮は時流に適したので、「一般不振のうちにも当業界は無難に経過」。</p> <p><b>資金貸付・借入</b>：デフレ→運営資金の対策は相当重荷→商中金、三菱銀行と連繫</p> <p><b>共同施設</b>：組合員もこれに信頼して利用度を高め頗る好調な成績。敷布の原糸の晒加工著増→「到底委託に任ぜられざる状況」→連鎖式自動漂白装置を考案、設置。乾燥室、ラベリングマシン設置。作業収入は前年度比1,000万円増収。</p> <p><b>事業改善・教育・情報提供</b>：31.1 埼玉県繊維工業指導所の指導の下、新製品研究、企業経営合理化を目的として、所沢繊維工業経営研究会設立。新繊維の講習会：30.5アセテート講演会と化繊映画会、6.13化繊織物の研究講演と座談会。先進産地視察：米沢、十日町。10.25埼玉県価額繊維品競技会に組合員が参加、入賞（入間川織物工業所、鐘八織物工場、関根織物工場等）。11.11平仙レース工場を天皇が見学。</p> <p><b>商況</b>：31.1.15より綿調連、綿スフ織物は全国的に不安の状態→広幅先染織物・広幅生地織物に対し生産割当制実施（価格維持のため）</p> |
| 1956 | <p><b>生産</b>：生産に関する事項：輸出順調、国民生活水準向上→衣料に対する購買力増加→高級綿服地順調。小幅物は対前年度比数量で13%減、金額で4%増、広幅物端数量で33%増、金額で実に40%の増額＝製品が高級化された結果。56.3 繊維工業設備臨時措置法の発令→過剰織機処理：全国で綿スフ織機7,000台、絹人絹織機5,000台買上実施。本組合は広幅22台小幅9台の供出。＜綿スフ織物＞輸出綿織物前年度と変化なく、縞3線は生産なし。内需綿織物：広幅は数量では敷布最高、ババリー、ポプリン、タッサー、先染ブロード、風呂敷の順。数量で27.6%増。本組合の技術の高さが認められ「最高の栄誉を獲得し断然好評を博し日本一とさへ激賞された」。広幅スフ織物は綿織物に傾注したので45%減。小幅綿スフ織物は、縮、丹前、夜具、黒八、交織御召、数量的には減少したが「技術的製品」に力を注いだ。＜合成繊維織物＞ポプリン、ババリー、ビニロン、敷布の外クレハロン、天幕地等を生産。数量的には43%増。＜絹人絹織物＞小幅物の大島緋、人絹交織の丹前地、着尺地のみで前年と大差なし。綿織物に主体。小幅織物は減少、広幅物は「断然増産され、価額において40%増の17億円を突破した事は、製品の水準を高めた証左にして、所沢織物の発展は更に多くを期せらるる処」。</p> <p><b>販売</b>：製品によっては商社と直接取引を以て製品の荷捌き。本年度においては終始良好な成績。「最近鐘紡のспанレーヨンの単票を使用せる商品は特に風合いにおいて好評」</p> <p><b>資金貸付・借入</b>：商中金・三菱銀行と連繫。小幅綿縮製造業者に対し縮用原糸の燃加工備蓄のため原糸の共同購入資金融資</p> <p><b>事業改善・教育・情報提供</b>：小幅部会：原糸共同購入。金曜会：小幅部会中の有志、技術交流・経営刷新の研究を目的。埼玉鐘紡単会：鐘紡の単票の原糸使用製品好評につき品質向上・維持を目的に32.4月に原料商、買継商、製造者が一体となって設立。産地視察：福井市繊維機械近代化展、織物見本市見学。31.11月仏子工場、中小企業庁長官より本年度優良受診企業として表彰。56.8 飯能市にて所沢、飯能地方中小企業者座談会開催、中小企業庁長官・県商工部長等参加、実情披露。全国中小企業等協同組合中央会より「経営指標試案策定委員の委嘱」を本組合が受ける。</p>   |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>商況：「本年度は年始以来敷布、風呂敷は益々需要の多きを見、広幅服地及びババリー等高級綿布は他産地を凌駕するの数量景気に終始成績良好で、小幅縮類も業者の熱心なる生産意欲に格段の好評を以て需要あり」、「誠に好調裡に経過」</p>  |
| 1957 | <p>生産：生産に関する事項：「当産地は従来より高級綿布と大衆製品たる敷布の需要が多くあったため生産は順調」。小幅も「組合主催の競技会において審査員より関東随一の講評を得たほどの優良品」だったので「比較的順調な生産経過」。数量的には小幅は13%減、広幅は13%増。金額は41%の増。綿スフ織機及び絹人絹織機は本年度も過剰織機の買上があり、綿スフ織機の幅16台、小幅1台供出。＜綿スフ織物＞輸出綿織物：「輸出不振の影響」で前年度比63%の激減。内需綿織物：先染ブロード服地、オックスホード等技術的製品は益々多きを加え、敷布は「断然多く前年度に比し27.7%の増加」。ババリー、タッサー、別珍等は減少。綿織物総体だと「一般市況不振ながら数量的には11.7%、金額において6%の増加を見た」。広幅スフ織物：前年度比50%減。小幅綿織物：総計において33.6%増。本年度は夜具地、縮、丹前地が数量・金額とも増。＜合成繊維織物＞「幸い本組合員はこれ等新繊維の応用には特殊の技術を有するを以て…新規にビニロン細綾が生れた外ナイロン、ポプリン、ナイロンババリー等は前年度に比し格段の生産増」。</p> <p>＜絹人絹織物＞依然生産制限が実施、低調。数量、金額とも前年度比27%減。</p> <p>販売：本県大阪物産幹旋所主催の問屋・デパートと座談会→技術面で指導を受け→「本年度も滞貨少なく販売量の増加を見る」。敷布は新製品により増加。縮織物は前年度の倍。</p> <p>資金貸付・借入：三菱銀行の製品担保貸付枠は従来300万円→500万円へ。中小企業等協同組合中央会の特別融資→幹旋、融資受け。近代化設備資金貸付5工場219万円</p> <p>共同施設：晒装置増設→「最近頃に多くなった敷布用の晒の能率を上げて生産に助力」。カラバン設備→「糊付を統一」。</p> <p>事業改善・教育・情報提供：小幅部会：縮について「求評会においては関東随一の折紙さへつけられた」。埼玉鐘紡学会：7月の所沢秋冬織物競技会で単糸使用織物が2点特賞入賞。図案会・講習会：「繊維工業試験場と常に連絡を保ち技術の向上と流行意匠の意向の提供に努め」、7回開催。視察：足利、伊勢崎。</p> <p>その他：中小企業団体の組織に関する法律（57.11法律第85号）→「従来の所沢綿スフ織物調整組合は本法によって商工組合（改称名は所沢綿スフ織物工業組合）に移行」。</p> <p>所沢産地診断の実施：「季節生産形態を脱却できず、ために操業度の低下、資本効率、収益性の低下を余儀なくしていることと、流通性の偏向性等の問題が内包」→産地診断の実施 1. 診断対象：1）綿織物工業（毛織、絹人絹兼業者を含む。82工場） 2）協同組合 3）買継商 4）原料商 5）関連産業（染色、捺糸等） 2. 調査対象：1）労働基準監督署 2）労務事務所 3）職業安定所 4）金融機関 5）流通機構（市場調査） 6）繊維試験場</p> |
| 1958 | <p>商況：「本年度の商況は、製品的には著しく進歩を見、敷布の如きは約28%の増産を見、高級敷布も依然強味あり。小幅縮類も或は加工に或は緋等技術的の向上を見て、相当需要の多くを見たが、5月以降の金融引締めによって業界は甚だしく不安に陥り…、他産地に比しては概して良好」</p>   |
| 1958 | <p>生産：輸出不振・金の制約→業界は「依然長期に亘る不振」。政府は輸出振興、設備の制限、需給調整、過剰織機買上、設備近代化を施策。6月、全国業者危機突破大会開催。しかし「香しくない商状に終始」。当産地は生産・価格の減少を見たが「広幅先染綿布、敷布、ハンカチーフ等特殊製品は2部制にして漸やく需要に応へるものさへあり。比較的順調。過剰織機買上：33・34年も実施。管内では綿スフ織機33台、小幅127台、計160台（換算台数111.6台）。絹人絹織機箱幅30台、手機39台買上→34.5末破砕完了。＜綿スフ織物＞輸出綿織物：昨年までは梨地（変わり織り）とポプリンのみ、甚だ少量→本年度はババリー、ウエザー等を加へ44.8万平方米、金額で1.25億余円の増加。内需綿織物：生産量4%、価格2%の減少。広幅スフ織物：芯地、スレーキ増産、サージ服地、袋物地減→数量的に5%増、金額5%減。小幅織物：4%増、価格で5%減。「小幅織物の前途は甚だ暗い…化学繊維応用の丹前地の製織に入る、一部広幅織物に転換すべく研究」中。＜合成繊維織物＞原糸未市販と加工設備未設置のため「当地としては未だ多くの製品は生産されていないがナイロン、ビニロン、テトロン等は相当使用するに至り、特に本年度においてはテトロン使用のブロード服地の新製品が生産化された」。今後仏子工場に高圧染色及びヒートセッター等合織の染色、整理機械が設備さるる予定。＜絹人絹織物＞「主</p>   |

|             |  |
|-------------|--|
|             | <p>として人絹交織の丹前と絹の大島紬であるが量的にも甚だ僅少で従来の半額・時代の趨勢上また止むなき結果。</p> <p><b>販売：</b>販路拡張は従来通り展示会、見本市へ出品、買継商による関東・関西の集散地、東北・北海道への店員派遣、製造業者自体による東京商社・八王子方面での製品受注→「滞貨少く経過」。先染綿布俊樹においては集散地の定評→多くの需要。産地診断によると所沢製品と知られてないものがあつたり、「マーケティングの調査」で販売面の刷新が指摘されているので、販売政策に対しては大いに研究を要する。</p> <p><b>資金貸付・借入：</b>「依然長期の手形決済と商品の取引が小口であるため資金繰りににおいて相当困難」→融資・借入斡旋に尽力。近代化設備資金2工場申請、該当しないため不可。</p> <p><b>共同施設：</b>業態がすべて委託加工→繁閑差がある。広幅服地・ハンカチーフ等シルケット加工好調、「小巾の需要層が生活様式の変化に伴う需要減とウール着尺の圧倒による生産減少の止むなきに至った」→夜具地40%の加工減。</p> <p><b>事業改善・教育・情報提供：</b>小幅部会：「何分小幅織物は全般的にウール着尺に圧倒されたのと時代の流れは洋服化されたので一部年輩者の需要に範囲が狭まれた」→一部広幅織機を入れて組織の工夫をなし時代に即応することとなった。広幅部会：34.2月の東京織物問屋同業組合主催の全国織物産地競技大会において広幅織物の準優勝旗を授与された一面目躍如たるものがあり。布帛部会：広幅綿織物中数量的には約62%の生産ある敷布、風呂敷およびハンカチーフ等布帛に属する製品は所沢織物の特産としてすでに定評、33.3月に布帛部会確立。所沢繊維工業経営研究会（所沢織物技術研究会と改称）：「マーケティングについて横浜市立大学教授山口辰男先生に委嘱して実態調査」。「本年度は問屋デパートから売れ行き良好の商品を購入してその製品の組織を分解して説明を加へた見本帳を作成し毎月頒布し製織上の参考資料として業績をあげた」。凶案会・展示会・講習会開催：仏子試験場で、テトロン、カシミロンの染色講習会、エクスラン技術講習会開催。</p> <p><b>所沢織物産地診断の勧告：</b>32.5総合調査開始→34.1組合事務所で県知事より現地勧告会が行われ完結。「要するに生産協同体の性格を持つ当産地は技術の上にたち独自の製品を多種多様に生産し、競争場裡においても独自の地位を築いている点は企業の特徴であり強味」、「その反面経営管理の面において認識がなく、従って財務管理、人事管理、販売管理は未熟」であり、「経営管理を近代化するとともにマーケティングの活動は大いに努力を有することを指摘され」た。</p> <p><b>商況：</b>先染綿布は全国織物産地競技大会で準優勝の技術水準ということで好調、敷布も好調、「小幅物は全般にウール着尺に圧倒されて相当苦心」</p> |
| <p>1959</p> | <p><b>生産：</b>業界は「不況の域は脱したとは言ひ難い」が、消費堅調、一般産業界好調、よって国内需要増→「所謂数量景気を現出」。反面、「過剰織機の大量の整理処分、および生産制限等自主調整に多大の犠牲」と合理化努力。当産地の小幅物は前年度比数量22.7%減、広幅ものは20.8%増、金額の総計は15%増。小幅物は織機供出により36%の設備減による。広幅物増は先染服地の技術の良さと、敷布、ハンカチーフ「頗る好評」のため。＜綿スフ織物＞輸出向け：ババリー49%増、ウェザー168%増、vari織・ポプリンその他73%減、総額において57%増。内需広幅綿織物：数量18%・金額16%増。敷布、先染ブロード、ハンカチーフが「著しく増加」。スフ織物：「前年度に比し著しく減少」。「合成繊維が出廻った関係上単なるスフ織物は消費者の意に副はないもので自然の成り行き」。＜合成繊維織物＞減資が市販されず「チョップとして生産化」されているので生産率は少ないが、「ブロード、ババリー、服地等において前年より相当増加。総額で70%増。「冬物に悩みを持つ当産地としては合織織物に行くべきが当然であって、合織部会の結成によって促進」。＜絹人絹織物＞絹織物：主として大島紬、減額。人絹交織：交織丹前、アセテートと人絹交織丹前、幾分好成绩。本年は広幅綿織物中「敷布、ハンカチーフおよび先染服地等が非常に伸び、合織物もまた増加の傾向」</p> <p><b>販売：</b>広幅物は主として商社からの注文生産、「敷布も主として東京商社との直接販売が漸次多くなって」いる</p> <p><b>資金貸付・借入：</b>商工中金、三菱銀行と取引枠を設定→融資確保。県の「産地特別振興資金制度実施に伴い所沢産地産業振興競技会の議を経て資金の融資を斡戦死、体質改善を援助」</p> <p><b>共同施設：</b>合織織物への進出＝樹脂加工が必要→高圧染色機とクリップ式ヒートセッタ</p>  |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>一機を増設。従来の第1整理部(小幅)、第2整理部(広幅)に別れていた配置を統合し、流れ作業円滑化→モデル的工場として注目されるに至った。</p> <p><b>事業改善・教育・情報提供:</b> 小幅部会: 繊維工業臨時措置法規定に基づく綿スフ織機の過剰織機処理規則(34.3)により、小幅織機127台(346台中)供出。アセテート原糸使用のボンテート丹前地製織。広幅部会: 全国織物産地競技大会、グランド・コンクール等で通産大臣賞、中小企業庁長官賞獲得。同部会の要求によりクリップ式ヒートセッター、高压染色機設置→高級綿布・合織織物育成発展の原動力たらしめた。所沢織物技術研究会: 見本の毎月配布、冊子「経営診断の手引き」を無料配布。県より補助金。所沢産地産業振興協議会: 埼玉県産地特別振興対策運営要綱(34.4)に基づき34.11組織。「その第1歩として組合員の業種の転換と組合共同施設の近代化設備に対し振興設備資金の借入幹せん」→共同施設のヒートセッター等1千万円、木下織物株式会社社外工場の広幅織機への転換に1,143万円。図案会・展示会・講習会: シンセ員にボンネル、テトロン等の製織・染色の講習会開催。出品・入賞: 34.9.1第5回全日本繊維技術振興展で鐘八織物株、中小企業庁長官賞、34.9.2コットン・グランドコンクールで丸中織物工場、通産大臣賞、35.2.17第12回全国織物産地競技大会で丸中織物、中小企業庁長官賞等</p> <p><b>商況:</b> 「広幅服地類は依然高級先染綿布の強味を見せて活発化中、敷布においても既に数量的にも、実質的にも所沢の敷布として定評を得る…ハンカチーフも異常な発達を見た…。一面企業者としては最近就職者が著しく減少し、労働条件が甚だしく悪くなったので、自然生産コストに影響する処多きを見」。</p>  |
| 1960 | <p><b>生産:</b> 「繊維業界の推移は終始無難な景況(その理由は)…世界経済が上昇、衣料に対する内外の需要が極めて旺盛」。本年度の生産状況は…小幅物において10.3%の増加、内需広幅物9.3%増、「輸出物においては49.4%の異常増加を見」、金額の総計で15%増=20.83億円。&lt;綿スフ織物&gt;輸出向織物: ババリー、ウェザーはアメリカへ。前年度比49.4%増。内需広幅物: ブロード、ババリー、先染服地は減少、敷布、ハンカチーフは依然上昇37%増。「目下画期的な後晒し加工の研究中」。小幅綿織物: 縮・黒八成、夜具、丹前地増。スフ織物: 「合織織物の現出によってこれが需要は著しく減少」。合成繊維織物: 「商社よりの発注相当あり…前年度に比し実に15.8%の増加…先染綿布とともに業界に名をなす」。主な原糸はテトロン混綿とビニロン、ボンネル等…製品はブロード、ババリーおよび服地類。「合織織物の前途は既に業界の定評を得たので更に進展するものと確信」。絹人絹織物: 紋御召とネクタイ生地のみ、人絹交織は丹前地が主、前年度比18%減。</p> <p><b>販売:</b> 「広幅物はその殆どが注文製産で、柄指定により生産…小幅物としても見込生産とは言へ、柄極めによって生産」→滞貨なし</p> <p><b>資金貸付・借入:</b> 商工中金と三菱銀行所沢支店と融資枠設定継続。近代化設備資金幹旋11工場454万増、産地特別振興資金借入(仏子工場共同施設)500万円、同資金幹旋1工場500万円。件、年末産地金融円滑化のため「産地産業年末金融促進資金」貸与: 預託額500万、貸付額2160万、15名。</p> <p><b>共同施設:</b> 作業収入1億円を突破。前年度ヒートセット機設備以来加工技術洗練、「ハンカチーフの整理の如きは格別称讃」。敷布の後加工を後晒しへ変更研究中。<u>ベーキング機・オープンソーバー・テンター・脱水機・糊付機増設。</u></p> <p><b>事業改善・教育・情報提供:</b> 小幅部会: 合織織物にも力を注ぎアロン着尺好評。布帛部会: ボーダーの研究。合織部会: 35.3結成、紡績会社・商社との連絡を保つ。所沢織物技術研究会: 人材養成のため「繊維工業経営大学講座」、17名の特別研究生。合成繊維、経営、販売、生産、財務等に関する講習、県より補助。所沢産地産業振興競技会: 振興設備資金の幹旋。組合共同施設のベーキング機等5台設置へ500百万円貸付。</p> <p><b>その他:</b> 605.3県知事より優良団体として所沢織物商工協同組合表彰。</p> <p><b>商況:</b> 「本年度の商況は各品種に亘り比較的好調…時代的製品とも言うべき合織織物がビニロン、テトロンを中心としてだい頭し、先染綿布とともに異常な発達を見た」</p> |
| 1961 | <p><b>生産:</b> 繊維業界は「好ましからぬ年度」だった。理由は貿易自由化により輸入増、金融引き締め政策一年末に金融逼迫。政府の中小企業政策は設備の近代化・経営の合理化・体質改善。当組合は、小幅物8%減、広幅物8.37%増、金額で9.65%増。&lt;綿スフ織物&gt;輸出向けはウェザー、ババリーが大半、仕向地はアメリカ、オーストラリア、ニュージーランド等。数量は6.4%減、金額は7.3%増、「高級品の多くが需要を見た」から。内需向け広幅綿スフ織物: 敷布、先染服地、ハンカチーフ、変わり織り風呂敷地、就中敷布は</p>   |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>広幅綿織物の70%。小幅綿織物は夜具地、縮、丹前地、黒八等。前年度比で減、ウール丹前に蚕食されている。「スフ及びその他の交織物は漸次減少」、合織の現出のために「止むなき結果」。&lt;合成繊維織物&gt;「合織織物は愈々洗練され原糸もテトロンを主に、ピニロン、カシミロン、ボンネル等各種原糸によって服地、ババリー、敷布等各種に亘って需要の多くを見ているが、敢中テトロン綿混の服地はそのよさが認められ」競技会等で優秀な成績。数量前年比43.5%、金額38.8%増。「所沢代表製品としての今後一層の進展を約されている」。&lt;絹人絹織物&gt;丹前地、勾配織、ネクタイ地が生産、少量。「遺憾ながら低調」。</p> <p>販売：「常に新製品の展示或は見本市、競技会に主要製品を出品して紹介に努めた」。殆んど滞貨なく順調</p> <p>資金貸付・借入金：「金融引締めが極度に実施されたので、本県においては年末金融の枠を多くして」貸付。(表)</p> <p>共同施設：「仏子工場開設以来既に10年を閲し設備も漸次完備され、技術的にも相当錬磨されたので基盤が確立され」た。作業収入は1億4千万円。ボイラー、シーツ後晒加工設備（未完成）</p> <p>事業改善・教育・情報提供：小幅部会：主体は丹前地、縮。「小幅業者も漸次減少の傾向にある」。広幅部会：技術交流・講習会、資料獲得により、「合織織物は前年度に比し生産額において43.5%の増加を見るの効果」。布帛部会：「ボーダーの研究に意を注ぎ…本年度はタオル織機転換に対して割当台数の増加要求のため通商産業省に交渉…タオル産地所沢の実現に多大の努力をなした」。所沢織物技術研究会：研究会は、所沢、飯能等各産地ごとに結成されていたが、「その運営は大体試験場において当たっていたので」試験場を中心に一本化する事が適切であるとして、所沢、飯能の技術研究会を解散し、37.1埼玉県繊維技術研究会を設立、新機構として4月より発足。所沢産地産業振興協議会：共同施設（重油ボイラー、後晒加工設備）647万円、組合員3工場（自動織機・準備期設備）1340万円。</p> <p>商況：年末の金融引締めのため集散地間屋は手許在庫減らし一業者に痛手。「従業員の不足と労務費の高騰および原料高により、採算面からは余り好結果ではなかった」。「新製品創作の多くを見、特に合織織物に至っては断然好評を博し、前年度に比し数量において43.5%、金額において38.8%の増加を見た事は、技術革新時代において大いに意を強うした。…又タオル織機の転換承認によって来年度にはこれが生産を見るべきと予想されるが、然る上は所沢織物に更に一品種が追加され産地の発展に資することを期待」。</p> |
| 1962 | <p>生産：37.10月より88%輸入自由化。生産状況の好転は見られない。小幅物3.6%減、広幅物0.6%減、総金額3%減。&lt;綿スフ織物&gt;輸出入：綿布はウェザー・ババリーが主体だが、合織物進出により数量で27%、金額で11%減。それに代わって合織物の先染服地、ババリーが「新たに登場」。「主なる原因は本年は内需服地が存外不振を見たので海外に需要を求めることが業者の採るべき方針」となったため。そのほか、香港、バンコク市場に、丸中織物外3工場主が直接出張し受注。「漸次輸出面への転向の気運」。内需向：敷布75%、ハンカチーフ、先染服地の順。総計では0.9%減。敷布、ババリー、オックスフォード、スレーキは増、先染服地、代り織等は減。「本年度はタオル織機の設備完了により新たに浴巾およびタオルケットが生産され、所沢織物に新製品が出現」。綿スフ小幅織物の交織丹前は殆ど前年度と同様だが、縮類は31%の減産。「生産者が漸減と縮加工者の減少のため止むなき結果」。夜具地、人絹丹前の減少に代わって、合織着尺、ウール着尺地の生産を見た＝「時代の要求」。合成繊維織物：前年度比8.4%増。テトロン綿混の先染服地が最多、「今後更に発展の動向」。絹人絹織物：小幅の絹勾配と絹ネクタイ地のみ。</p> <p>販売：展示会・競技会に出品、販路開拓。「広幅服地にあつては従来どおりその殆どが注文製産」。新製品タオルは「一部寝巻に仕立て販売されたためこれが需要の多くを見た」。</p> <p>資金貸付・借入：原料糸の漸騰、ベースアップ等で資金繰り困難→借入幹旋、製品担保での組合直接貸し。近代化設備資金幹旋9工場、964万円、県経営合理化資金借受幹旋15工場、4,620万円。産地産業年末金融促進資金の幹旋5,850万円46工場。</p> <p>共同施設：市況不振の影響で業績減→「営業課」設置、「受注の大量を目指」す。仕事の内容を一般に知らしめるため、38.3月より仏子工場を「所沢織物商工協同組合仏子整染」へと名称変更。深井戸掘削、16本ステンレスシリンダー、44本バーナー瓦斯焼機設置。</p>   |

|      |   |
|------|---|
|      | <p><b>事業改善・教育・情報提供</b>：広幅部会：中里進・細田徳二郎・牧野朋作・竹田久治、京都吉忠の斡旋で香港、バンコク市場視察・受注。所沢産地産業振興協議会：県の産地振興対策と呼応し仏子工場合理化資金900万、設備資金15工場4,620万円を斡旋</p> <p><b>商況</b>：商社・問屋は「金融引締めのためか在庫商品を極力さけ、所謂需要に応じて発注」メーカーとしては繁閑の波が激しく操業に苦心。「労務力不足と賃金の高騰により採算的には好調でなかった」。敷布は他産地を凌駕、定評を得ている。広幅服地類は不振、各産地で生産を始めたから生産過剰。新製品のタオルは未だ完全ではないが、タオルケット、パジャマ地及び浴巾等の新たな商品が生み出されたことに期待。</p>   |
| 1963 | <p><b>生産</b>：「管内景況は甚だ遺憾ながら依然不味の状態…生産額においては前年度に比し増加を見たが、実質的には相当苦難の操業」。繊維業の「輸出面は諸外国の輸入制限措置と需要の変化に伴い減少し…輸出の不振から漸次内需に生産が向けられ、従って過当競争が激しくなり、労賃高騰、原糸割高、取引価格低下、金融引締めのため「苦難な状態」。当産地は設備近代化、体質改善により、「広幅物は10.5%の増を見たが、小幅ものは9%の減少を見、金額においては18%増加の26億円を見た」。&lt;縮スフ織物&gt;輸出向け：綿織物はババリーが主体、合繊織物はババリーの生産がなくなり新製品としてビニール袋地が出たが、未だ多くを見るに至らず。先染服地は前年度同額。内需向け：順位は、敷布、先染服地、ブロード、ババリー、ハンカチーフで、敷布は縮スフ総額の70%を占めている。タオルは前年度比3倍という著しい増加。小幅縮スフ織物は丹前地、黒八が微増、主製品の縮は価格で7%増。小幅生産者が減少し、「漸次広幅物に移行するもの多く」。合成繊維織物：前年度比生産高で12%、金額で2%増。テトロンを主としナイロン、クレハロン、カシミロン等各種の原料を主とした製品が生まれた。絹人絹織物：少額、低調な絹ネクタイ地、人絹交織の服地生産。</p> <p><b>販売</b>：従前通り産地買継商が仲介して東京集散地、地方卸商へ販売。広幅服地は「その殆どが注文生産」、敷布、タオルは「東京集散地が近くにある関係上直接取り引きする向もあり」。「採算的には賃金高騰と原糸の割高のため苦しさを見ている」。販路の拡張は展示会・競技会へ出品し「製品の紹介に努めた」。</p> <p><b>資金貸付・借入</b>：輸出不振による国際収支の赤字→日銀預金準備率引き上げ・公定歩合引き上げ→資金繰りに相当困難。「繊維業界全般から見て近年にない多くの倒産者を見たが、当産地は「原糸の高騰、労働の不足、賃金の上昇、決済度の長期化等によって資金繰りは繁忙を極めた」。そのため、組合直接の融資(580万)、近代化設備資金(18工場、1751万)、本県経営合理化資金(1工場、500万)、国民金融公庫設備・運転資金(6工場、600万)、県中小企業特別運転資金(39事業所3,482万)、県年末資金(43事業所、6,017万)</p> <p><b>共同施設</b>：1億3,400万円余の作業収入、中小企業近代化資金助成法による共同施設設置費貸付金の交付を受けてシルケット機、脱水機、ソーピング機等6台設置。レースの整理は昨年比で2倍以上。</p> <p><b>事業改善・教育・情報提供</b>：小幅部会：主要製品は夜具地、丹前地、黒八、縮類。僅少ながらウール着尺、合繊着尺も生産。広幅部会：主として服地関係の業者で構成。先染服地不引合を見たので浜松産地の状況視察、同産地業者と懇談。布帛部会：敷布は依然好調、業者は「生産意欲も益々旺盛」、タオル製品は前年比3倍の生産増。撚糸部会：37、3月通産省令32号により撚糸機の生産設備制限が発令→本組合が登録事務、よって該当業者組合へ加入、撚糸部員14名へ→38.11部会結成、10月に発表された撚糸業改善事項により設備近代化、機構の適正化を図る。所沢産地産業振興協議会：県経営合理化資金斡旋(1工場500万円)。季節向製品求評座談会・各種講演会・図案会開催。諸会への出品：所沢織物求評会60工場666点出品、埼玉県輸出向繊維製品求評会へ409点出品、全国織物産地競技大会出品70点等。</p> <p><b>商況</b>：「年間を通じて生産高においては広幅数量において10%の増加(小幅ものは9%の減)を示し、金額的には18%の増額」。「原料の高騰と賃金の上昇により依然採算的にも不遇の操業を続けるの止むなき状態」。敷布は好調、新製品タオルは順調。</p> |
| 1964 | <p><b>生産</b>：「本年度の業界は依然不振の継続」、資金の枯渇と取引条件の悪化、開放体制移行による輸出不振、労働需給の逼迫→「近年稀に見る多くの倒産者を出現」。当産地は「苦難な商況を辿り、殊に主要製品である服地類はその発注極めて間隔的でしかもロットが小さく、早期納入といふ起業者にとっては甚だ不利の操業を見た」。しかし「倒産の波及も見なかったため不振ながらも無難に経過」。総額において前年度比小幅10%減、広幅</p>   |



|      |  |
|------|--|
|      | <p>1.3%増、金額で8%の減。＜綿スフ織物＞輸出向：先染服地とババリーののみ。前年度比97%の減、合織のビニール袋地60%減。「輸出面は開放経済下各種な障壁があり、而かも世界各市場において我が国製品と強烈な競争が展開されて居り、特に賃金の如きは50%以下の国さへある程にて…すべての障壁を排除しなければこれが回復は見込まれない。内需向：広幅綿スフ織物では敷布、タオル製品、先染服地、変り織、ハンカチーフ、ババリーの順。敷布は広幅綿織物の73%、前年度比11.9%増産、金額も13.5%増で10億6,800万円で総生産額の44.6%。タオルが15%増。ハンカチーフ11%減、綿ババリー28.6%減産。小幅物は総計で10%の減ながら綿縮が前年度比70%増。合成繊維織物：「依然テロン関係が多くナイロン、クレハロン、ビニロン等が使用され、その品種も服地、ババリー、マーベルトが主」。総額において25.7%減。絹人絹：絹織物としてはネクタイ地、人絹織物としては服地類において殆ど前年度同様。</p> <p>販売：流通機構は従来通り機業者－産地買継商－東京・関西問屋と地方卸商の順。「立地的に東京市場に近いため敷布、タオル等は直接東京問屋との取り引きするものあり」。滞貨はないが、「依然労働力の不足と高賃金のため全般的に不味の商状」。取引高は広幅織物1,819万平方メートル、小幅15.9万反、総額24億6484万円。</p> <p>資金貸付・借入：公定歩合2厘引き上げ→「依然引締めは緩和されず手形の長期化と資金借入れの困難化等きびしき資金繰りに終始…本年は戦後最大と言われる大型倒産と多くの倒産者が続出…当産地においては幸いにも倒産被害は1件もなかった。「市場の取引はその殆どが手形決済であり而かも決済期日は概ね90日より150日」、金利も平均2銭4厘で「資金繰りは相当困難」。製品担保による転貸運転資金1,230万、近代化設備資金20工場2,691万、国民金融公庫借受8工場810万、県年末資金借入7,300万、中小企業特別運転資金借入4,590万円。</p> <p>共同施設：「本年度は目標に達するを得ず遺憾ながら損失金を計上」。本年度作業収入1億3,985万円。連続樹脂加工機・総糸染色機・ウインスデッカー・小巾用エボッシング等設置。深井戸掘削。</p> <p>事業改善・教育・情報提供：広幅部会：服地関係を主体、「商社の発注は実需期近で小口のもの多きため、操業度は繁閑甚だしく、更に採算的にも大きな悩み」。小幅部会：本年度は縮に特別の発注70%増、仏子整染で「エボッシング機設備して縮味の特殊加工を為したため非常に好評」。布帛部会：「シーツ、タオルは益々需要の多くを見」、シーツは12%増、タオルも15%増。「先晒設備近代化促進会」設置し特別な研究。</p> <p>その他：65.1.12県主催、中小企業庁、東京通産局後援の埼玉県下中小企業モニター会議商況：前年度比総額で小幅10%減、広幅1.3%増、全額において8%の減、「甚だ芳しくない生産状況」。敷布は、「比較的順調」だが、「最近これが製品は各産地とも生産の多きを見、過剰生産の様相を見るに至った」。タオルは「順調」。綿縮製品は「エボッシング整理機」による特殊加工が奏功して価格は70%増。輸出用綿ババリーは97%の需要減退。</p> |
| 1965 | <p>生産：「一昨年後半から本格化した日本経済全体の不況と繊維業自体の特殊事情は何等回復を見ず」「全般的に低迷状態」。「繊維業界は労働力需給の逼迫と低開発国の急速な発展と、更には輸入制限等々悪条件の下に圧力を見、近年になき多くの倒産者を見」た。当組合の主要製品の先染服地類は発注が間欠的で安定せず、敷布製品は比較的順調、幸いに倒産の波及も見なかった。「産地全体としては平調」。小幅は生産量1.6%減、金額4.3%減、広幅3.9%増、金額で5.2%増、総金額で4.7%増。＜綿スフ織物＞輸出向けの綿織物でギンガム、ババリー「いづれも非常な増産」。内需向：敷布（綿スフ総額の70%）、先染服地、ギンガム、ババリー、ハンカチーフの順。綿スフ織物合計は前年度比4.8%増。小幅物は夜具地、丹前地、縮の順。スフ織物では黒八、着尺地、ウール着尺地で横ばい。合成繊維織物ではテロン服地が62%、ついでババリー、ブロード、マーベルト等で対前年度比2%減。絹織物その他織物は、ネクタイなど。</p> <p>販売：従来とほとんど変化なし。取引高：広幅織物1,711万平方メートル、小幅織物14.7万反、その金額25億5,848万円</p> <p>資金貸付・借入：取引条件はむしろ悪化の傾向。「手形決済期日も平均して120日は通例」、繊維業者の倒産は「戦後最高を記録」。製品担保転貸運転資金1,390万円、近代化設備資金8工場1,427万、国民金融公庫（設備・運転資金）14工場、2,090万円、県年末資金借入6835万円</p> <p>共同施設：「昨年度の5,000万円に上る画期的とも云ふべき新施設」→良質の水を多量に</p>   |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>供給。作業収入は前年度比35%増、1億8,800万円。整理加工量は前年度比71%の増、布晒83%増。樹脂加工機・ボイラー・深井戸軟化装置等設置。</p> <p><b>事業改善・教育・情報提供</b>：広幅部会：服地類の需要は頗る悪し・小幅物部会「年々減少」、「ハイマツト加工」を研究、完成。布帛部会：晒設備特別研究委員会設置。図案会・諸会出品・県の指導：産地振興のため県繊維工業試験場技師によるシーツ工場巡回技術指導。労働力確保等の中小企業労働対策のため国・県の指定団体となる（県内14団体）。</p> <p><b>その他</b>：11月、埼玉県火災共済協同組合と代理所契約、5企業と火災保険契約。</p> <p><b>商況</b>：小幅物1.6%減、広幅物3.9%増、総金額で4.7%増。「当産地の主要製品であった服地類は依然不調…一部敷布に転換の止むなき向もあった」。広幅特殊物としてババリーにおいて24.5%の増を見たが、ハンカチーフにおいて採算不引合カラ、5.6%の減少を見たことは先染産地として遺憾。「晒加工設備の近代化を計画し、これが研究に最大の目標を置いて居り、やがて実を結ぶものと確信し、所沢敷布の名声を挙げるに努力を払っている。「本年度の商況は、敷布を除き上半期においては殆ど前年度同様不振の継続であったが、下半期においては稍々好調を迎える状態」だった。</p>   |
| 1966 | <p><b>生産</b>：当産地の状況は「依然として低迷」、小幅は0.2%の減少、広幅は7.9%の増加、総金額で8.8%増加、27億3千万円の生産額。「製品の高級化或は能率化によってコスト減を図り、赤字解消と前向き姿勢に万全の策を樹て回復に努力した」。「本年度は埼玉県の産地診断をうけ、幾多の難点を指摘され改善を要する事項の多きを見た外」、政府の構造改革案が発表され、「来年度の構造改善実施に大きな期待をかけている」。&lt;綿スフ織物&gt;輸出入：本年度は綿ババリーのみ。前年度比94.5%増産。内需向：綿スフ総額において8.4%の伸び。敷布最多（内需綿織物中73.7%）で先染服地類、タオル、ババリー、マーベルトの順。本年度はスフ織物のインテリア製品が19.3%増。小幅物：金額で2.9%増、340反増。綿着尺地、帯地、スフ黒八、丹前地は増産。合成繊維織物：テトロン服地ギンガムが総体の47.8%、ババリー変り織、ブロードの順。カシミロンマフラーが前年の6倍の生産、これは「スキームードに乗った時代的製品」。合繊全体は8.8%の増。</p> <p><b>販売</b>：広幅織物2,083万㎡・27億2,109万円、小幅織物15.1万反・1億1,327万円、計28億3,437万円。広幅8.9%増、小幅2.5%増、金額では10.7%増。</p> <p><b>資金貸付・借入</b>：製品担保金融1,955万円、近代化設備資金22工場、3,745万円、国民金融公庫借受5工場、1,075万円、夏季・年末資金65工場、12,080万円</p> <p><b>共同施設</b>：作業収入2億4,900万円、後半期に意外に多くの景気の上昇があったから。新設備：連続式糸糸乾燥機、深井戸及水中ポンプ、糸糸染色機等。</p> <p><b>事業改善・教育・情報提供</b>：布帛部会：産地診断による問題点の指摘を受けて再度特別研究委員会を設置、他産地のサイジング設備視察、共同施設、共同販売、共同原糸購入等の計画樹立。季節向製品求評会：綿テトロン・カシミロン等の新素材を用いた新製品、インテリア製品も出品。糸染・晒工場の巡回指導：繊維工業試験場技師等が5染色工場を巡回指導し、42.2月結果報告。31.10月繊維工業試験場長・組合員製造業者、欧州繊維事情視察</p> <p><b>所沢織物最低賃金協議会</b>：65.10月より業者間協定による最低賃金1日450円を67.2月より500円へ</p> <p><b>所沢織物産地診断の実施</b>：「最近の繊維業界は原料革命、消費革命が製品の性格を変え、流通の性格を変えるに至り、更に労働力の不足とこれに伴う賃金の上昇は致命的な経営上の課題となって居り、産業界間の経営格差はますます増大」→「あすのあり方を検討し経営改善の目標づけ」のため、所沢、高階の両山地を対象に診断実施。県経営診断係は40.4月説明会から、42.1月産地診断報告会に至るまで、企業者の実態と組合の経営実態を産地経営、生産流通、労働、組織の4部門について詳細に調査検討し、当所沢産地の問題点を指摘し改善の方向を示された。」</p> <p><b>所沢産地構造改革計画策定準備</b>：綿スフ織物の現状は余りにも深刻で…思い切った施策を集中的に実施する必要がある。「高効率、高技術産業に脱皮」し、「付加価値生産性の高い産業に飛躍するの外にない」。政府は、「1.近代化投資の促進 2.過剰設備の処理 3.転売業の円滑化 4.企業の集約化 5.新商品および新設備の開発等をあげ、産地の実情に即した構造改善案によって実施せしむることとなった」。「当産地は、県の産地診断報告に基づき改善策を研究の折柄、この構造改革案が発表されたので、今後業者が生き延びるにはこの構草案に乗らなければ産地は破滅の悲運に至るべきを察知し、直ちにこ</p> |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>れが計画策定に入った。」→41.8月、通産省技官を聘し「産地構造改革対策説明会」、42.3月、綿スフ工連・県担当官による説明会、同日協組・工組役員会にて構革組合設立・計画策定上の組織化に着手。</p> <p>商況：小幅はわずかな減少、広幅は7.9%増、総金額8.8%増。全般的に不況のため「取引が慎重で所謂必需品の需要供給」。敷布は依然上昇、綿服地は数量的に減、金額は増。広幅スフ織物は「インテリア製品が漸次多くな」っているが、スフ織物全体は減。輸出品として、綿パバリー前年度比で倍増、ただし輸出合織物は減。</p>  |
| 1967 | <p>生産：小幅・広幅とも増。「金額的には先染服地関係において高級製品多くの需要を見た」。織維産業界全体は高度成長・開放経済体制への移行等で「大きな構造変動に直面」。本組合は昨年度末期より産地構造改善事業を計画策定し、長期5カ年計画樹立、しかし通産大臣の承認を受けたのが12月であり、計画当初と承認時の設備計画に変更が生じ、そのため変更承認を受けたのは年度末になってしまった。そのため、「機械の設備は予定の通り実施を見たが、商品開発、市場開発等の集団的事業は遺憾ながら実施に至らなかった」。</p> <p>＜綿スフ織物＞輸出入：綿織物ではパバリーのみ。内需向：綿スフ織物総額では前年度比の数量で2.4%、金額で8%増。主要製品は敷布（綿スフ等広幅織物中の60%、綿織物中の70%）、前年度比の数量で6.9%、金額で11.7%増。次いで変り織（服地）、タオル、パバリーの順。変り織は前年度比92%の増であり、「改善計画による高級品への前進に成果があったもの」。スフ織物中インテリア製品が前年度比で57.7%増、「商品開発の点からも一歩前進した成果」。合成繊維織物：前年度比37%の減少、「インテリア製品が138%増といふ多くの増産を見たことは特殊傾向で、今後が注目される」。</p> <p>販売：「構革組合においてグループによる共同受注、共同販売を目論見たが、大臣承認の遅れから未だ実施に至らず、来年度に持越された」。広幅織物2,122万㎡・28億9,851万円。小幅織物15万反・1億1,680万円。計30億1,532万円。</p> <p>新貸付・借入：製品担保運転資金貸与3,231万円、近代化設備資金借受4工場513万円、国民金融公庫借受4工場850万円、県夏季・年末資金借入1億5,965万円</p> <p>共同施設：「特定織物業構造改善に歩調を合わせて仏子整染高度化5カ年計画を樹立…42年度は其第1年度として概ね其目標達成が出来た。只一番問題となることは当産地商品が夏物にかたより7,8,9月等が閑散季となり、不採算…。人手不足と人件費の上昇は年間平均した作業に依る採算を絶対必要…県当局の勧告の様に合織を取入れ秋冬物の開拓が急がれる」。合織仕上げの準備は整っている。42年度新設備：ゼオライト式除濁除鉄装置3基、日本高分子価額精練晒白装置2基、京都機械自動乾燥機1基等。「整理加工において服地類が前年度に比し23%の増加を見た事は、設備の完備とともに所沢産地特有の技術的服地の需要が多かった事を物語って居り、幸いであった。」</p> <p>事業改善・教育・情報提供：広幅部会：「本年構革実施に当り「クリエートナインサークル」としてグループ化し、一層団結を固め情報の持ち寄りや他産地との交流をなし」。待望のシートグループも仏子整染に設備。服地、インテリア製品の生産増加。布帛部会：原糸の異常な高騰→主要敷布産地と相謀り42年11月4日に大阪にて協議の結果、15%アップの要望書を全国取扱商社に発送し「適正価格維持を図った」→「1枚につき20円乃至30円の値上がりを見て多大の効果を収めた」。「特筆すべきは所沢産地構造改善の一環とし所沢織物布帛協同組合を組織し（43年3月4日設立）、通産大臣の承認を受けて既に土地も買収し工場建設とともに準備機械を設備に入った…明年度開業」。サイジング機は68年度設置予定→「これが完成の上は敷布業にとり貢献すべく大いに期待」。所沢織物求評会68.2開催：埼玉県繊維工業試験所と審査長とする講評で、「シャツ部門において所沢は日本一」とされている。図案会・諸会出品並びに県の指導：「埼玉県中小企業総合指導所においては、産地の構造改革と合わせてグループの育成指導に当ることになり、推進工場グループ制度要綱を制定された」→本組合推薦・67年12月県指定により、所沢織物布帛協同組合グループ（宮岡工業所、倉方繊維KK、鐘八織物KK、関根工業KK、新井織物工場）、クリエートナインサークルグループ（木下織物KK、丸石染織工場、牧野工業KK、大沢織物工場、丸太織物KK）が活動を開始。所沢産地構造改善事業の実施：67.10計画承認申請→67.11通産省のヒヤリング→67.12大臣承認。計画作成から承認までに半年以上経過したので「機械の改善と経済事情の変化によって当初計画を変更の止むなきに」。よって68.3変更計画の承認→実施遅れ。設備近代化と布帛協同組合による晒設備の準備は期間内だが、商品開発、取引改善は「次年度の活躍に待つ」。県が</p> |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>資金面で強力にサポート。67年度内実施事業：設備近代化投資は織機・準備機・共同施設（所沢織物布帛協同組合）等へ1億7,670万円。67年12月：工業組合の変更登記：所沢綿スフ織物構造改善工業組合と名称変更、出資払込済総額527万余円、構革組合として発足。</p> <p>商況：「服地類はギンガム等の普通服地類は減少したが、ブロードおよびサッカー系統のvari織服地において非常に好評であり、所沢技術的製品としての価値ある商品が多くの需要を見、大体順調に終始した。而して小幅類は生産は大体横ばいであるが、綿着尺地および縮類が好評を得て先づ先づの商況」。「主要製品である敷布類は、原糸の高騰により採算的には余り香しくなかったが、値頃品の受注意外に多く、生産量も約7%の増産と金額的には10%の増加…漸次高級化した製品に移行された結果で」ある。</p>   |
| 1968 | <p>生産：生産量は小幅織物14.1%減、広幅織物3.1%減、生産額は総計で3.7%増。「先染服地類は比較的好調」、シーツ関係は「平調」、「生産量の減少は人手不足による操業度の低下、即ち従来二部制の工場も一部制の止むなきに至った」。「繊維界の一般状況は労働力不足、諸物価の高騰によるコスト増、諸外国の輸入制限、後進国の追ひ上げと特惠による輸出競争力の強化等々内外の諸状況は益々きびしさを加へられる」。「本組合は、産地構造改善工業組合と対（ママ）アップし、設備の近代化、企業の集約化、市場の開拓、労務対策等諸施策の実施に努め、特に集約化による所沢織物布帛協同組合の共同事業は設備を完了し、晒およびサイジングの事業も開始した外、原糸の共同購入をも併せ行うに至ったことは、構革事業の一端を完全遂行したもので大きな成果」。&lt;綿スフ織物&gt;輸出向：綿織物はパバリーのみ。「数量的にも金額的にも51.8%の増加」。さらに「合成繊維のパバリーが新たに生産され取引を見た」。内需向：「敷布を第1位とし、服地類、タオル、ハンカチーフの順位で生産され」た。「綿織物中敷布は71.7%、タオルは43%増、主としてタオルシーツの増＝「シーツの高級化」。スフ織物が前年度比で激減したが「綿織物並びに合織織物に主力が注がれた結果で止むなき」ことだった。「合成繊維織物」素材はテトロンが主。服地、ギンガム、ブロード、パバリー等多品種の生産。</p> <p>販売：新製品の発表会・全国産地織物競技大会出品のほか、「市場調査によって動向を研究し、販路の開拓に資」す。「大体順調に効果を収めた」。</p> <p>資金貸付・借入：国、県の金融制度を活用。製品担保運転資金貸与（組合直接貸与）本年度融資額6,640万円、近代化設備資金4工場446万円、国民金融公庫5工場900万円、埼玉県1億9,940万円。県の高度化資金借入によりボイラー、ショーループ、ガス毛焼機等を設置（3,735万円）。</p> <p>事業改善・教育・情報提供：広幅部会：「先染ブームに乗って好調」。来年度は「クリエートナインサークル」を法人組織として「共同受注、共同販売を実践せん」。布帛部会：前年度構革により、所沢産地総生産量の64%をしめる敷布業界が所沢織物布帛協同組合を組織、チーズ晒、サイジング設備完了、原糸共同購入で「構造改善の実を挙げつゝある…布帛部会も一身（ママ）同体的的存在」。所沢織物求評会と座談会の開催：69.2開催、埼玉繊維工業試験場長が審査長。審査員は取引商社77名。「講評」として、広幅物は最近の高級品需要に適用しているものが多い、「タオルは色、柄、組織とも変化はあるが、先進産地と比較して未だしの感がある」。所沢織物構造改善事業の実施：構革は所沢綿スフ織物構造改善工業組合により実施。当協同組合は「側面的に援助」。68年度は「計画した設備は全部完了」。「布帛協同組合の加工事業も開始を見た」。</p> <p>商況：「服地類においては前年度に引き続き受注多く終始順調…主要製品である敷布においては非常に逼迫を見たときと荷もたれ状態を見る等…起伏があった」。生産量は数量的に減少したが、金額的には横ばい、よって「製品そのものが高級化した…よい傾向」。</p> |
| 1969 | <p>生産：総生産価額で前年度比3.8%増。主要製品である服地類は「比較的好調」、敷布は生産量で3.7%、金額で0.5%減少。「要するに全般的には高騰とは言い得ず、寧ろ労働力の不足が益々深刻化されたことにより、操業度の低下と原因で伸びるべきものも伸び得ず沈滞状態を見た」。繊維業界一般は「不安に終始し、就中労働力の不足と賃金の上昇等がなんとしても致命的であったが、製品そのものゝ需要は前年度同様多」かった。&lt;綿スフ織物&gt;輸出向：ニューヨーク市場向けの綿パバリーのみ。前年度比64%増。内需向：敷布（綿織物中70%）、服地類、タオル（シーツを含む）、ハンカチーフ、インテリヤ製品の順。「高級化したパバリーおよびvari織製品が著しく増加」。スフ織物：インテリヤ製品その他で、前年度比生産量59%、金額75%の減。合成繊維織物：服地、ギン</p>  |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>ガム、ブロード、マーベルト、敷布の順。素材はテトロンが主。合計で量14%、金額7%増。その他織物：ネクタイの絹織物等。「特に本年度は夏のシートとして麻混織物が生産されながらも相当量あった…シート界に新製品として飛躍された」。</p> <p>販売：前年度同様求評会、全国産地競技大会等に出品。シート、タオルの主原料である20番手が異常な高値→採算面に大きな影響。</p> <p>資金貸付・借入：全国的には倒産件数が史上第2位の高水準の中にあつて、「当所沢業界は一部商社の倒産の被害をうけたもの2、3あったが…産地内には倒産者なきため苦難のうちに稍平静裡に経過」。製品担保の短期運転資金組合直接融資552万円、国民金融公庫借受3工場、5,500万円、県季節資金1億8,485万円。</p> <p>共同施設：仏子整染は、前年度は「遺憾ながら不振」だったので、県中小企業総合指導所の工場診断を受け、改革に取り組んだ。「根本理念としては、共同施設工場としての性格と企業の経営をなすことにより組織換へをなし、同年10月以降実施」したが、「未だ完全たるを得ず」とのこと。レース加工品「極度の減少」、服地、ハンカチーフ、等は増、「ケミカルレースはレース界の不況の為四分の一の減少」、「加ふるに高級品の減少と格安品の増加」で加工単価下落。人員の大幅減少と固定費の切り下げにより改善が見込まれている。</p> <p>事業改善・教育・情報：広報部会：構造改革計画による法的組織は本年度成立に至らず来年度に向け準備委員会設置。布帛部会：前年度来共同施設工場（所沢織物布帛協同組合）設置、原糸の晒、染織、サイジング加工、原糸共同購入が「大なる効果を収めつゝある」。所沢織物求評会：45.2月埼玉県繊維工業試験場長を審査長に商社75社を審査員として開催、敷布については「全国的にきびしきを感じられて居り素材を考へる要がある」といったコメントもあり。</p> <p>その他：定款変更：事務所所在地を埼玉県入間市に変更</p> <p>総会・理事会決議事項：69.8買継部員10名脱退と平岡、新井両氏理事辞任の件、9月買継商脱退者に対する処置の件。組合組織に関する件（理事長は工場長として工場運営に当る）。</p> <p>商況：「服地は前年度に引続き好調を辿り…技術的製品たる変り織りにあつては前年度に比し17%の生産増加を見たことは高級化の現象」。「敷布にあつては労働力の不足による操業低下と需要面の起伏多きため年間的には3.7%の生産減少」。期末には20番原糸の統騰→採算面から苦境に追い込まれた→値上げ要請</p> |
| 1970 | <p>生産：広幅物生産数量7.8%減、金額6.08%増。小幅物数量11.3%減、金額8.74%減。「敷布は全般的に労働力不足のため操業度の低下」がありながら、高級品に移行下で数量減、金額増へ。服地類は先染服地・変り織服地とも増加だが、内地向ババリー地30%減、合織織物42%減→「広幅は総体として減」。&lt;綿スフ織物&gt;輸出向：前年同様綿ババリーのみ。「数量、金額とも7.8%の増加を見たが、アメリカの繊維規制が問題化している折柄伸び率は低く、今後一方的自主規制によって果たして如何なる結果を見るか、今後の動向が気遣われる」。内需向：広幅綿織物中敷布が第1位で66.8%、服地類およびタオルが13.5%で第2位。「本年度はタオル、シートが異常に増加した…これは消費傾向の時代的变化がもたらした結果」だ。スフ織物：主としてカーテン地等の格安品が多い。合織々維織物：「大きな減少を見た…漸次綿に移行されたものと見らる」。</p> <p>販売：求評会、全国競技大会等に出品、需要の喚起に努力。「本年度は全般的に市況不振と労働力不足のための生産減少から取引量も減少の止むなきに至った」。「敷布、タオルにあつては原糸たる20番手が本年も亦中期において高騰を続け不採算に陥った」→商社に製品値の適正価格を要望。</p> <p>資金貸付・借入：「例年のとおり組合の融資と本県の季節制度資金の利用等により、金融機関の援助もあつて本年度も無難に経過」。製品担保の運転資金組合直接融資3,715万円、国民金融公庫借受4工場、1,020万円、1,020万円、1,020万円、県季節資金借入1億8,105万円。</p> <p>共同施設：仏子整染は、68年度以来「業界の不振に伴い遺憾ながら好成績を見るに至らなかつたので、昨年度来これが改革に入」つた。45.9月浜野繊維工業株式会社との業務提携→糸染工場を廃し布染工場へ転換。整理部門の従業員削減による業績回復を試みたが「先染服地関係は著しく不振」、「レース加工品も亦極度の減少」で「本年度も亦遺憾の運営」。</p> <p>事業改善・教育・情報提供：繊維業界は、日米繊維問題、発展途上国の追い上げ、資本</p>  |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>の自由化、国内的には労働需給の逼迫、賃金上昇、原料系の高騰等、「経営上内外共に波乱の多き年間」。所沢産地は「製品の高級化に努めたことにより一般市況不振の中にも無難に経過」。広幅部会：他産地との交流により製品向上・改善に資する（播州、浜松、三河、桐生、足利）。布帛部会：「労働力不足の上に原料系の高騰によって著しく採算の不引合を見た」→取扱商社に製品価値上げ要請<br/> <b>労務改善</b>：労働力不足→「小規模企業者への中卒者の採用は殆ど見られない」→「定着性を求める以外にない」<br/> <b>定款変更</b>：46.3定款変更認可：事業中に「メリヤス、編レース」追加、事務所を所沢市から入間市へ変更認可。<br/> <b>商況</b>：「服地類にあっては上半期は前年度の好調を入れて順調な商況…下半期に入っては…商況少なく不振のまま経過」。「敷布は全般的に需要減退し、生産も前年度に比し9.6%の減少…高級化されたことにより金額的には3%の減額」。「原料系は前年度に比し更に高騰」→「本年度は服地、敷布共に芳しくない商状」</p>  |
| 1971 | <p><b>生産</b>：「本年度における繊維業界は実に破乱（ママ）多き年で、発展途上国の追い上げ、対米輸出規制、特惠関税供与、ドルショック等々実に憂慮すべき事態」、「内部的には労働力の不足、労賃の上昇、物価昂騰等に加えられ内外共に厳しい環境変化に直面」。広幅物数量5.7%減、小幅物9.5%減、合計の金額2.3%減。合繊部門ではババリーが数量で31.8%、金額で3.6%減。＜綿スフ織物＞輸向：綿ババリーのみ。数量、金額とも53%減。「本年度は対米規制問題が突発した関係が多分に含まれ」ている。内需向：敷布は広幅織物中65%で首位、ただし前年度比で数量・金額とも減。次いで服地（ブロード、ババリー、先染、変り織等）が綿広幅の19.1%、3位はタオル地。合成繊維織物：服地、ブロード、マーベル、マフラー、ストール等、前年度比14%減。<br/> <b>販売</b>：「全般的に市況の不振の上に対米関係の余波をうけて輸出産地が内需向に転向した向もあり、自然過当競争の傾向にあって、十分な製品消化に至らなかった」。<br/> <b>資金貸付・借入</b>：対米輸出規制、特惠関税供与、米国の輸入課徴金賦課、為替変動相場制の実施等々の「国際状況に大激変があって景況は再度低迷」→従来の金融施策の外に、輸出規制特別措置による長期低利資金等の融資」。製品担保の組合直接の短期運転資金2,840万円、国民金融公庫借受8工場、2,120万円、県季節資金融資2億828万円、臨時繊維産業特別対策として長期低利資金貸付（繊維買上げとともに工業組合取扱）<br/> <b>共同施設</b>：46.11月、業界不振のため昨年の計画を改め、染織部門の工場と設備機械はハマノ工業株式会社へ賃貸契約一組合としての染織工場運営は中止。<br/> <b>事業改善・教育・情報提供</b>：研究機関としての広幅部、小幅部、布帛部、染色部それぞれが機能。求評会：繊維工業試験場長審査長、審査員は取引商社80社、講評で広幅物は「多より先んじ市場を把握する事に衆目すべき」、小幅は「縮とカスリに力を入れ趣味的なもので行くべき」、敷布は「一層高級化に努めて欲しい」、タオルは「最近輸入品が多く出廻って居り…これらに対応すべきものに進められたい…ファッション的なものを加味して欲しい」。労務に関する事項：「若年層そのものが進学傾向にある…中小企業への就職は忌避される…従ってこれが対策には高年者或はパートタイマーによるの外な」ということで、定着性を謀るためにも福祉活動を増やした。<br/> <b>商況</b>：「本年度は、対米問題、ドルショック等国際状況の激変のため業界全般に沈静商状を見たので、当産地製品にも影響少なきとしながら（ママ）、先染服地は上半期は低調、下半期は順調、敷布は前年同様の需要があったが、「並品においては産地間の過当競争があって採算的には不味の状態を呈し好調とは言わないまま越年」。輸出製品はババリーで「対米問題の余波をうけて前年度に比し半数以上の減少」だった。</p> |
| 1972 | <p><b>生産</b>：「円の再切上げ、日米繊維協定の実施に伴う保護貿易、輸出抑制のための一連の措置が実施され、又国内的には設備の過剰性、労働力の逼迫、大幅なコストアップ、更には労働時間の短縮と騒音、排水などの公害除去の重要課題」→「容易ならざる様相」。産地も同様な景況、「労働力の不足、賃金の上昇と、さらには異常な原料系の高騰」→組合員の懸命な努力→「大体において前年度と同様な生産量と販売額」となった。広幅物は量的には6%減、金額10%増、小幅物は数量21%減、金額15.5%減。総計では数量6.3%減、金額は前年度とほぼ同様。主要製品の敷布：数量で10%減、金額4%減、高級化。服地類：ブロード、先染服地端数量・金額とも減、変り織りは12%増、これは「消費者の得意がファッション化し、技術的製品に多くの需要」があるため。ババリーの数量8%</p>   |

|             |   |
|-------------|---|
|             | <p>増、金額18%増は内需に重点を置き換えた結果だとしている。小幅物の減少（数量21%、金額15%）は「時代の趨勢」でやむを得ないとしている。＜綿スフ織物＞輸出向：パバリーのみ。「輸出規制により内需に重点」→減少。内需向：広幅中敷布（広幅の61%）数量10%減・金額4%減は「設備の減少による影響」と製品高級化の結果。服地類（ブロード、パバリー、席染服地、変り織り）広幅中20%で2位、タオルは17.5%。合成繊維織物：服地、ブロード、マーベルト、マフラー、ストールの4製品。合成合計で生産量30%減、価額17%減。綿布を重点にした結果とみている。</p> <p>販売：「最近の流通機構は漸次大型化しつつあるに鑑み、産地としても強力な企業体制でなければ対応出来得ない状況にある…第1歩として産地の主要製品である敷布製品の共同販売を目論見、昭和47年8月以来当業者相計り組織化の競技研究に入り…昭和48年3月14日共同組合所沢織販の創立総会を開催」、「販売上画期的な事業」。</p> <p>資金貸付・借入：製品担保による組合の運転資金直接融資920万円、国民金融公庫借受2工場500万円、県季節資金（予託額2,500万円）2億5,600万円</p> <p>共同施設：仏子整染は「前年度来大改革を実施し、爾來機構を…理事長総括の下に整理部、営業部、総務部、組合事務局の4部門となし…従業員極力圧縮して最小限度に止め」最大の能率を追求→前年度比整理部門12%増、晒部門24%増、糸シルケット40%増。梱包機設置。</p> <p>事業改善・教育・情報提供：労働に関する事項：「若年層の就業者は皆無…昨年同様定着性を求めることに重点を置き、その他は男子従業員の採用とパートタイマーを求めて、又準備工程を下請けに出す等の手段にて操業度の低下を防ぎ小康を保ちつつある」。</p> <p>その他：海外視察：理事長等韓国繊維産業を視察</p> |
| <p>1973</p> | <p>生産：「本年度における繊維業界の展望は…昨年度の不振に加えて石油問題、原料糸の異常な高騰、賃金の大幅アップ等が問題化し、インフレ景況を見て容易ならざる様相」。本年度の生産は数量的には前年度と殆ど同数量だが金額的には23%の増→「需要の動向が高級化したのが原因と思われる」。製品別では、総生産量中、敷布が56%、服地類（先染）19%、タオル16%の順。前年度比だと敷布28%増、服地23%増、タオル13%増、合繊20%増等となっており、「製品そのものが高級化したるに因る」</p> <p>販売：「殆んど在庫なく販売され、不振と言われている状況の中で良好な成績を見た」、「併し採算的には原料糸の高騰と経費の増加、賃金のアップによって不味であった」。「前年度設立された協同組合所沢織販により活動開始され、而かもその成績は出足好調にて順調な発展振りを見た」。</p> <p>資金貸付・借入：組合直接の製品担保による運転資金融資は「融資先銀行の倉庫壊滅により本年度にて打ち切り」、商工中金借受3工場3,300万円、国民金融公庫借受16工場980万円、県季節資金融資（県予託600万円、借入額3億8,110万円）</p> <p>共同施設：本年度は「横ばいの生産量のため稍良好の経路を辿り、レース関係も比較的多くの更加工を見たため良好果を収め得た」。</p> <p>事業改善・教育・情報提供：「経営面は比較的良好にて倒産者もなく経過」</p> <p>その他：49.3月、仏子整染の廃水処理装置設備竣工</p> <p>商況：「ファッション化により技術的製品にその多くが望まれ…商社からも高く評価され数量的には生産量は減少したが価額には13.6%の増は製品の技術化に前途に希望をもてる」。</p>  |

- ・ゴシックの各項目は資料記載項目とは異なるが、記載内容より略記した。
- ・アンダー・ラインは引用者が付与。
- ・前掲資料の各年度事業報告書を参照。

さらにこの組合の財務諸表から、中心的な共同事業の収支と融資・幹旋事業の状況についてまとめたものが表10である。組合利益と仏子整染（所沢織物商工協同組合の施設）の事業状況から共同経済事業の概要を見ておこう。

1947年度から「輸出綿布の梱包機設置と整理工場の開設」から始められた

表10 所沢織物商工協同組合の共同施設・融資事業の推移

| 年度   | 組合利益 (千円) |         |         | 仏子整染 (千円) |         |         | 貸付・幹旋額 (万円) |       |       |       |       |        |       |
|------|-----------|---------|---------|-----------|---------|---------|-------------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
|      | 当期剰余金     | 繰越金     | 差引剰余金   | 労務費       | 事業収入    | 当期剰余金   | 組合          | 年度末   | 近代化   | 金庫    | 県予託   | 借入額    | その他   |
| 1947 |           |         |         |           |         |         |             |       |       |       |       |        |       |
| 1948 | -48       |         | 1       | -48       | 248     | 558     | -79         |       |       |       |       |        |       |
| 1949 |           |         | -48     |           |         |         |             |       |       |       |       |        |       |
| 1950 |           |         |         |           |         |         |             |       |       |       |       |        |       |
| 1951 | 494       |         |         |           | 5,354   | 18,341  | 889         |       |       |       |       |        |       |
| 1952 |           |         |         |           |         |         |             |       |       |       |       |        |       |
| 1953 | -529      | 66      | -463    | 15,494    | 28,224  | -27     | 418         | 145   |       |       |       |        |       |
| 1954 | 353       | -463    | -110    | 8,657     | 30,859  | 676     | 758         | 217   |       |       |       |        |       |
| 1955 | 35        | -110    | -75     | 11,141    | 40,849  | 577     | 1,241       | 146   |       |       |       |        |       |
| 1956 | 996       | -75     | 921     | 15,114    | 63,889  | 1,394   | 740         | 57    | 275   |       |       |        |       |
| 1957 | 2,240     | 0       | 2,240   | 16,116    | 65,009  | 3,775   | 1,857       | 472   | 219   |       |       |        | 90    |
| 1958 | 4,162     | 592     | 4,754   | 16,063    | 65,236  | 5,689   | 1,905       | 91    |       |       |       |        |       |
| 1959 | 4,844     | 1,289   | 6,133   | 17,546    | 78,570  | 6,537   | 592         | 50    | 362   |       |       |        | 560   |
| 1960 | 8,993     | 2,533   | 11,527  | 21,544    | 100,209 | 10,526  | 695         | 114   | 454   |       | 500   | 2,160  | 1,000 |
| 1961 | 5,290     | 926     | 6,216   | 27,325    | 106,581 | 6,813   | 525         | 92    | 573   |       | 500   | 5,120  | 2,341 |
| 1962 | -6,918    | 1,415   | -5,503  | 29,488    | 99,256  | -3,088  | 585         | 45    | 964   |       | 700   | 5,850  | 4,620 |
| 1963 | 10,120    | -5,503  | 4,617   | 38,445    | 134,801 | 11,323  | 580         | 245   | 1,751 | 600   | 800   | 6,017  | 4,382 |
| 1964 | -6,142    | 617     | -5,525  | 48,470    | 139,855 | -4,029  | 1,230       | 190   | 2,691 | 8,100 | 900   | 7,300  | 5,390 |
| 1965 | 7,372     | -5,525  | 1,847   | 59,372    | 188,837 | 9,391   | 1,390       | 170   | 1,427 | 2,090 | 900   | 68,350 |       |
| 1966 | 1,619     | 447     | 2,065   | 92,379    | 248,192 | 5,010   | 1,955       | 630   | 3,745 | 1,075 | 900   | 12,080 |       |
| 1967 | 433       | 865     | 1,298   | 120,507   | 286,551 | 5,662   | 3,231       | 520   | 513   | 850   | 1,900 | 15,965 |       |
| 1968 | -6,776    | 498     | -6,278  | 123,518   | 267,338 | -2,464  | 6,640       | 1,090 | 446   | 900   | 2,000 | 19,920 |       |
| 1969 | -32,593   | -6,278  | -38,870 | 102,383   | 237,765 | -29,675 | 5,552       | 570   |       | 550   | 2,300 | 18,485 |       |
| 1970 | 1,722     | -38,871 | -37,149 | 86,909    | 194,453 | -61,984 | 3,715       | 500   |       | 1,020 | 2,500 | 1,815  |       |
| 1971 | 2,636     | -37,149 | -34,513 | 82,789    | 213,819 | 4,544   | 2,840       | 460   |       | 2,120 | 2,400 | 2,083  |       |
| 1972 | 24,524    | -34,513 | -9,989  | 89,607    | 232,345 | 25,245  | 920         | 360   |       | 500   | 2,500 | 2,560  |       |
| 1973 | 11,381    | -9,989  | 1,392   | 134,571   | 321,673 | 15,721  |             |       |       | 980   | 2,600 | 38,110 | 3,300 |

- ・貸付・幹旋の各項目は、組合：組合の直接融資の本年度中融資額、年度末：同前の年度末残高、近代化：近代化設備資金の幹旋額、金庫：国民金融公庫融資幹旋額、県預託：埼玉県産地産業夏季・年末金融促進資金の預託額、借入額：同前を元にした金融機関の幹旋額、その他には、1957・61年の共同施設費借受、1959～61年の産地特別振興資金幹旋額、1962・63年の埼玉県経営合理化資金借受幹旋額、1963・64年の埼玉県中小企業特別運転資金幹旋額の預託額と借入総額、1973年の商工中金融融資額が含まれている。
- ・各年度の数値は前掲資料の各年度財務諸表および事業報告書の数値を使用。

共同経済事業は、飯能町仏子（現入間市）に施設が設置されることにより具体化する。整理工場が動き出すのは翌年後半からだったが、梱包機の方は輸出織物の受注が少なく、整理機の方は内需用織物の利用はあっても「成績良好ならざ」の状態であった。1950年には撚糸機械の設置や埼玉県繊維工業指導所が所有・経営していた染色・瓦斯焼き・整理・漂白等の設備の委譲により、工場設備がかなり整備されたようである。しかも朝鮮戦争により織物生



産量が急増し、1951年度の事業収入は1800万円まで急上昇している。1952,3年度にも艶出機やマーセライズ加工機、シルケット加工機等が追加され事業収入は順調に伸びている。1954年度より当期剰余金が累増し1960年には事業収入が1億円を超え、当期剰余金も1000万円を超えている。50年代後半には、主力製品となってきた数布のために連鎖式自動漂白装置を備えたり、合織の取り扱いに必要なベーキング機、高圧染色機クリップ式、ヒートセッター機等が導入され、新しい製品開発への対応も図られていた。このような共同施設の稼働により、協同組合も1950年代後半には差引剰余金が恒常的に残っている。

ところが60年代後半になると当期剰余金が減少し1968年度には赤字となる。比較的事业収入が伸びていてもそのような結果となる要因としては、人件費の上昇があったようである。労働力不足や大企業との格差是正という点から確かに人件費の上昇が見られる。60年代末にはこの地域における織物生産量全体の減退もあり、赤字となっている。

このような事態に対処するため人員削減や設備の縮小も検討されるようになっていく。

全国的な織物生産の推移、ことにこの地域の主要製品であった綿織物は、すでに検討したように1960年代初頭をピークとして下降していた。60年代末には生産の牽引車は合織に替わっていたのであるから、この地域の伸び悩みは特殊なことではない。繊維不況を構造的な不況と捉えた政府は、1967年には特定繊維工業構造改善臨時措置法を公布し、過剰設備の廃棄と生産体制の近代化に乗り出していた。この地域もそれに呼応して構造改善に取り組み始める。

1966年度事業報告書では、当年度に埼玉県による産地診断を受けてさまざまな改善点を指摘されたこと、そして政府の構造改革案が発表されたので「来年度の構造改善実施に大きな期待をかけている」と述べている。そして、「当産地は、県の産地診断勧告に基づき改善策を研究の折柄、この構造改革案が発表されたので、今後業者が生き延びるにはこの構改革案に乗らなければ産地は破滅の悲運に至るべきを察知し、直ちにこれが計画策定に入った」という。

同事業報告書によると、1966年8月の通産技官による「産地構造改革対策説明会」、1967年3月綿スフ工連及び埼玉県の担当官による説明会を経て、所沢織物商工協同組合・所沢綿スフ織物工業組合の合同役員会を開催し、構造改善事業の主体となる所沢綿スフ織物構造改善工業組合の設立へと進んでいる。

## 小括

構造改善事業に取り掛かるにあたり、所沢織物商工協同組合地域の織物業にはどのような問題があったのだろうか。この点に触れてこの稿を閉じる。

1966年12月、埼玉県商工部は『所沢・高階綿織物産地診断書』をまとめている<sup>24</sup>。これは、1965年4月に県の商工部経営課工業診断担当者が説明会を開催してのち、約1年半の時間をかけてまとめられたものである。診断を担当したのは、上智大学高宮晋教授を座長に、県商工部や繊維工業試験場、全国繊維工業技術協会、日本綿スフ織物工業組合連合会、中小企業団体中央会等に所属する専門家たちであった。

まず所沢織物産地を「中小企業の小規模産地」と捉え、総売上上の6割をシーツが占めている付加価値生産性の低い地域と見ている<sup>25</sup>。経営状態は「実に憂うべき状態」として、6～7割の経営が赤字であること、シーツ企業の8割が赤字であること、ただし一般的な「産地」と異なり広幅織物製造業者が中心勢力であり、買継商に支配されることなく協同組合を中心に「生産協同体とも称すべき性格」を持っていることを指摘している。その上で、向かうべき方向や方法について6点指摘している。第1に太番手のシーツへの偏りを是正し、「綿・スフ・合成繊維の高級複合織物」、新分野であるインテリア物の生産を提案している。第2に、「生産協同体の意識をよみがえらす必要」を指摘している。具体的には合成繊維の整理加工・染色施設を共同施設として新設し、個別経営の規模を引き上げつつ、共同施設の操業度に見合う需要は他産地に求める。その場合、従来のように多種類を扱う協同組合ではなく織物、染色、撚糸、買継商ごとの業種別の協同組合をつくり「これらの連合会によって産地的総合をはかってゆく」。第3に、有力企業を中心に業務提携

を結んだグループをつくり、その指導の下に新製品の製造・販売をおこなう。第4に、設備の近代化、規模の引き上げにより「経営の近代化」を図るということである。そして撚糸、染色、整理については共同施設を設けて強化する。第5に、技術や製品の開発にとどまらず「マーケティング体制の確立」を図ることである。そして第6に、試験場に「生産協同体の中心的一翼」として指導的役割を果たすことを求めている。

これらの指摘は総論部分に記載されたものでありそれぞれの根拠を具体的に示してはいない。しかしこのような診断に基づく提言が提出された時期は、日本全体の繊維産業が貿易摩擦や雇用問題をめぐって転機に立たされていた時期であり、所沢産地でも生産量において下降局面への転換期にあり、織物商工協同組合の共同事業も伸び悩みを見せていた時期であったから、現状の打開策として強いインパクトを与えた。そのことは上述のように迅速な構造改善事業への取り組み開始と、商工協同組合と一心団体であった織物製造業者の組織、所沢綿スフ織物工業組合の構造改善工業組合への改組（1967年7月臨時総会、10月認可、12月登記完了）に現れている<sup>26</sup>。

さて、1960年代末に所沢織物産地は生産面で大きな転換を迎えるとともに、織物業者の組織も国や県の政策に呼应しながら編成替えをおこなった。小稿で取り上げた所沢織物商工協同組合もこのような再編に積極的に関わっている。この地域における織物生産の種類別の変化や構成、共同経済事業の中核に位置する仏子整染の事業についてはある程度検討されたが、組合を構成している生産者や流通業者の経営の実態、組合を構成する各業者の組合への関わり方、さらには構造改善事業で大きな役割を負うことになる織物製造業者の諸組織、組織化とともに在来産業に対する重要な政策手段である金融面での支援状況等については、まだ検討されていない。構造改善事業の推移とこれら未検討の課題については次に検討を試みる。

## 付記

小稿の作成に当たって所沢織物商工協同組合事務局長佐藤修二氏、入間市環境経済部商工課長杉田清氏等より地元の織物業や協同組合に関する貴重な助言と資料に関する助言をいただいた。また、駿河台大学経済学部教授鎗田英三先生、秩父銘仙育成会副会長横山敬司氏よりこの地域の特性や構造改善事業に関する視点につき貴重な助言をいただいた。さらに入間市博物館学芸員工藤宏氏、三浦久美子氏、さらには職員の方々から資料に関する助言と収集についてご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。

また、本稿は2004年度浦和大学短期大学部特定研究助成費による研究成果の一部である。

## 注

- <sup>1</sup> 中村隆英『明治大正期の経済』東京大学出版会 1985 177頁。なお、同氏は「明治以後になって海外から導入された分野、たとえば洋服の仕立や靴の製造、ブリキ細工、さらには器械製糸などの業務」は、「新在来産業」と呼んでいるが（中村隆英編『日本の経済発展と在来産業』山川出版社 1997 3頁）、阿部武司氏が指摘しているように新在来産業のかなりの部分が輸出中小工業に属することを勘案して、それも含めたものとして「在来産業」を用いる（鈴木良隆「第35回統一論題」（経営史学会『経営史学』第34-4号 2000所収）参照）。
- <sup>2</sup> 前掲『日本の経済発展と在来産業』5頁。
- <sup>3</sup> 団体法を根拠法とする商工組合については、1990年代の規制緩和と政策の展開により、いわゆるカルテル機能を廃止する方向へと大きく転換している（毒島龍一「中小企業の組織化」（相田利雄・小川雅人・毒島龍一『新版・現代の中小企業』創風社 2002所収）参照）。
- <sup>4</sup> 織物業の企業合同と整備＝縮小・廃棄がおこなわれた。1940年商工省次官通達「織物製造業者ノ合同ニ関スル件」では、合同単位を綿スフ織機300台以上、絹人絹織機および毛織機100台以上、タオル織機150台以上とした。その結果、前年に2.5万を数えた業者数が1941年7月には1761の合同体に、約75万台の織機が25万台に縮小された（通産省編『商工政策史 第16巻 繊維工業（下）』1972 177～179頁）。さらに1942年公布の企業整備令、1943年の戦力増強企業整備要綱により綿スフ工場の織機

約36万台のうち供出・輸出申し込みが18.8万台で、敗戦時には12.4万台へ、絹人絹織機は1943年に35.5万台あったものが13万台へ、タオル織機は1939年頃には約8500台あったものが1946年には約3200台へと減少させられていた（日本繊維産業史刊行委員会編『日本繊維産業史 各論篇』1958 728、792、900、901頁）。

<sup>5</sup> 安藤良雄編『近代日本経済史要覧』第2版 東京大学出版会 1979 154頁参照。

<sup>6</sup> 同上書 10頁参照。

<sup>7</sup> 前掲『日本繊維産業史 各論篇』743頁。

<sup>8</sup> 通商産業政策史編纂委員会編『通商産業政策史 第10巻』通商産業調査会 1990 387～406頁参照。

<sup>9</sup> 通産省編『商工政策史 第12巻 中小企業』1963 419～420頁。

<sup>10</sup> 同上書409頁。

<sup>11</sup> 同上書437～440頁。

<sup>12</sup> 中小企業安定法では業種指定を法律から政令に変更し、1958年の本法廃止時には53の指定業種があった。調整事業は280組合で実施された（前掲『通商産業政策史 第7巻』1991 36～38頁参照）。

<sup>13</sup> 同上書17頁。

<sup>14</sup> 同上書46頁。

<sup>15</sup> 同上書47頁参照。

<sup>16</sup> 同上書65頁。

<sup>17</sup> 同上『通商産業政策史 第11巻』1993 299～306頁参照。

<sup>18</sup> 同上『通商産業政策史 第6巻』1990 662～682頁参照。

<sup>19</sup> 同上『通商産業政策史 第10巻』1990 390～407頁参照。

<sup>20</sup> 同上書403～406頁参照。

<sup>21</sup> 同上書415～417頁参照。

<sup>22</sup> 入間市史編さん室編『入間市史 通史編』入間市 1994 816～821頁。所沢市史編さん委員会編『所沢市史 下』1992 551～553頁。

<sup>23</sup> 所沢織物商工協同組合資料 No.342参照。

<sup>24</sup> 所沢織物商工協同組合資料 No.268

<sup>25</sup> 同上報告書 9～15頁。以下の引用文もこの部分による。

<sup>26</sup> 所沢綿スフ織物工業組合昭和42年度事業報告書（所沢織物商工協同組合資料 No.827所収）参照。

## Summary

### Organization and Structural Improvement Policy for Local Textile Industries in the High Economic Growth Era ( 1 )

Shin・ichi Shirato

The purpose of this paper is to analyze the role of small and medium co-operative enterprises and the policies for those co-operatives in local textile industries. The Japanese textile industry contributed to the reconstruction of the post-war economy and the acquisition of foreign currency from the 1950s to the 1960s. Local textile industries shared these roles. But since the early 1950s, it has often experienced economic recessions based on overproduction. Because local textile industries consisted of a lot of small and medium enterprises, they often suffered serious damages.

To avoid damages, two economic policies were adopted. First, it is a policy for local textile manufacturers to strengthen each smaller textile enterprise. They organized *Jigyo-Kyoudoukumiai* based on the law on the cooperative association of small and medium enterprises proclaimed in 1949. Second, it is a policy for them to control the quantity of products or productivity. They organized *Syouko-Kumiai* based on the law concerning the organizations of small and medium enterprises organizations proclaimed in 1957. In this paper, *Tokorozawa Orimono Syouko-kyoudoukumiai*, that is a *Jigyo-Kyoudoukumiai*, is examined mainly.